



災害医療

人材育成



事業案内



新潟大学医学部 災害医療教育センター
Center for Disaster Medicine and Education
Niigata University Faculty of Medicine

新潟大学医学部 災害医療教育センター

事業案内

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業

■ 発災～復興まで支援する災害医療人材の養成

■ 実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成

目次

- 02 センターの概要 ごあいさつ／理念・目的／アクセス
- 07 研究活動 プロジェクト紹介
- 15 教育プログラム ■ 発災～復興まで支援する災害医療人材の養成
- 22 【履修証明プログラム】次世代高度災害医療人プログラムアドバンスドコース
(AGコース)
- 24 【履修証明プログラム】災害医療コーディネーターコース(CCコース)
- 26 【履修証明プログラム】資格認定コース(LC)(インテンシブ)
- 27 教育プログラム ■ 実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成
- 34 【履修証明プログラム】災害医療ロジスティクス専門家コース
- 36 【大学院医科学専攻修士課程】災害医学(災害ロジスティクス)
- 38 【資格認定コース】(インテンシブ)
- 41 活動報告
- 55 日本災害医療薬剤師学会 第9回学術大会 大会概要



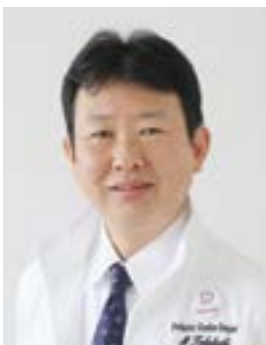
ごあいさつ

平成26年度文部科学省において採択された災害教育プログラム「発災～復興までを支援する災害医療人材の養成」が始まります。新潟大学医学部災害医療教育センターと国立病院機構災害医療センター・日本赤十字社医療センター始め国内外の多くの機関と連携しながら、災害・復興を科学しリーダーとなる次世代高度医療人材の養成と、災害医療教育カリキュラムの普及を目指します。

新潟県は中越地震(平成16年)、中越沖地震(平成19年)と立て続けに震災に見舞われ、急性期医療から復興期まで、新潟大学医学部は被災地として多くの経験を蓄積してきました。災害医療コーディネーターの必要性を訴え、制度を全国に先駆けて導入した新潟県は、その後の東日本大震災でも医療従事者・行政一体となってそのノウハウを被災地に伝えてきました。災害医療は急性期の外傷治療・対応だけではなくありません。実際の災害医療は亜急性期・慢性期・復興期・準備期の長い災害サイクルの中で対応すべき問題です。また、災害医療は医師や看護師などの直接的医療従事者では完結しない領域です。

本プログラムでは災害サイクルの各時相を俯瞰しながら 1)被災者の心と体の健康を守る専門的知識・技術を有し 2)行政と連携した災害医療対策を立案・実施でき 3)結果を調査・研究して次の災害へ備えられる「次世代高度災害医療人材」の養成を行います。また、併せて災害医療教育カリキュラムの普及を目指します。

本プログラムの事業主体は新潟大学ですが、全国の災害医療・災害医療教育に携わる皆さんと一体となって育てていくべき事業です。この冊子を読んで下さっている皆さんのお力を頂き、この国の「災害医療人材教育」の柱となるプログラムと一緒に育てていきましょう。



文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム採択事業
「発災～復興までを支援する災害医療人材の養成」
「実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成」

事業責任者

高橋 昌



理念・目的

新潟県は新潟県中越地震・中越沖地震と立て続けに震災を経験し、平時から発災時を想定した災害医療体制の構築の重要性を認識いたしました。また災害医療は超急性期に限らず慢性期・復興期までカバーする必要があり、直接の医療従事者に限らず、行政機関とも組織・職種横断的な連携が必要であることも再認識いたしました。

東日本大震災の経験を受け、実災害においては、平時とは異なり通信の遮断による情報不足が災害医療の極めて重大な問題となることともに、災害時相全域を対象とした、組織横断的な災害医療教育を行う体制の整備が必須の課題であると確信いたしました。

新潟大学医学部災害医療教育センターは、継続的に職域を超えて組織横断的な災害医療を実践することができる教育を実施し、実災害時に活躍できる次世代の災害医療人材の養成を目的としています。

また設備面では、実災害時における旭町キャンパスの通信遮断時等に、臨時的な災害医療情報等の通信手段として活用できることに視点をおき、災害医療教育及び災害医療情報のIT化に向けた教育・研究を行うための災害時通信設備機器を整備しました。

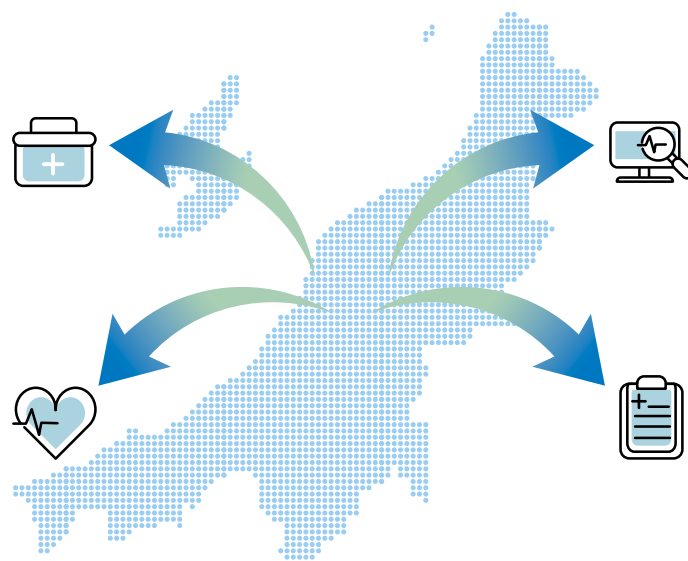


全国都道府県にとってもモデルとなる 災害医療教育活動体制を構築する



災害医療教育活動モデル

新潟から！
全国へ発信



■ 発災～復興まで支援する災害医療人材の養成

災害・復興を科学し、リーダーとなる次世代高度災害医療人材の養成、
災害教育カリキュラムの普及

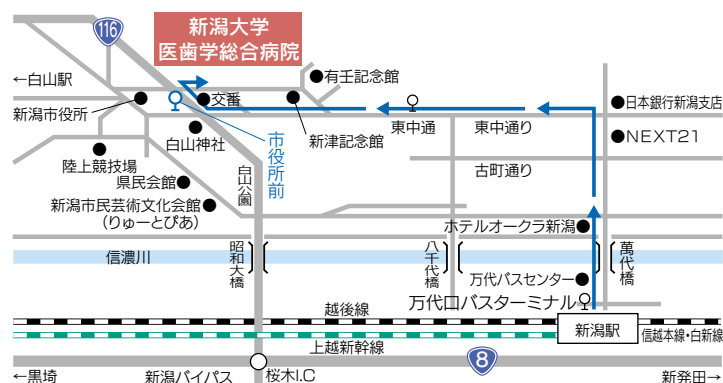


■ 実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成

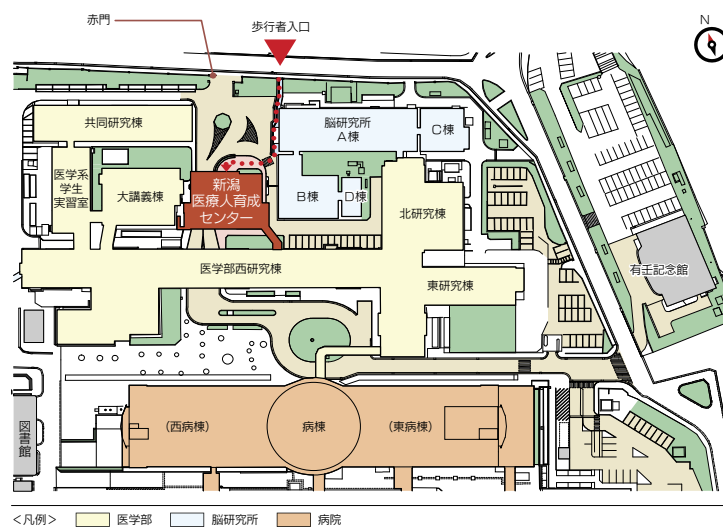
災害全時相・他職種連携を熟知し、かつ専門的業務調整力を備えた
災害医療ロジスティクス専門家養成カリキュラムの普及



アクセス



新潟駅より・車で約10分
 ・万代口バスターミナルよりバスで約15分
 「市役所前」下車、徒歩5分



新潟大学医学部災害医療教育センター

〒951-8510

新潟県新潟市中央区旭町通一番町757
 (新潟医療人育成センター内)

TEL 025-227-0827

FAX 025-227-2036

Mail disaster@med.niigata-u.ac.jp

<https://www.med.niigata-u.ac.jp/disaster/>



研究活動

プロジェクト紹介

発災～復興まで支援する災害医療人材の養成

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択

本プログラムは、新潟大学医学部災害医療教育センターを中心に、新潟医療人育成センターと連携して実施します。全国で養成の必要性が叫ばれている高度災害医療人材、すなわち「超急性期から亜急性期、慢性期、復興期まで災害医療の全時相を熟知」し、医療職種はもちろん、他職種・行政機関とも組織横断的に連携して「避けられる災害死」「災害関連健康被害」を最小限に食い止めるマネジメント力を有する次世代高度災害医療人材養成プログラムを実施します。

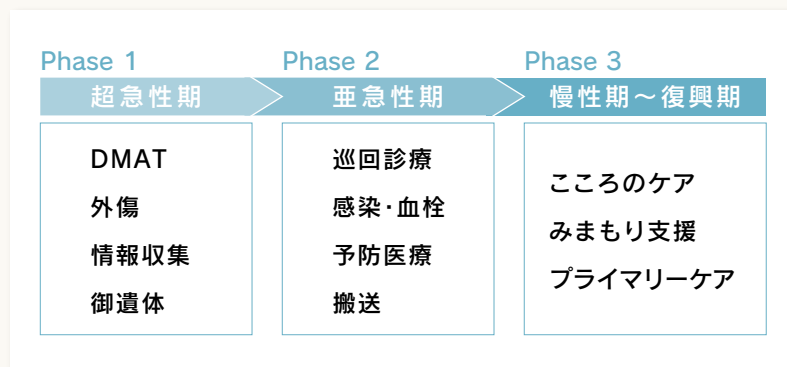
対象者は「初期研修修了後の医師」を対象としたコースと、「他職種（医療従事者、行政担当者）」を対象とするコースを設定し、両コースに共通のコーディネート研修を設定し、組織横断的連携体制の構築を学びます。国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センターとも連携し、平時の備えから実践まで全国地域のリーダーとなる次世代高度災害医療人材を養成、併せて教育カリキュラムの普及を目指します。



事業の構想

課 題

- 災害医療の対象は
時相によって変化する



- 災害医療では
組織横断的連携が必要



- DMATなど超急性期の技術的な研修しかない
- 災害の全時相を俯瞰して医療体制を構築できる指導的医療者の養成が急務



事業内容

災害全時相と、組織連携を俯瞰し、
災害医療マネジメント能力をもつ次世代高度災害医療人材の養成

- 新潟大学・自治体・地域医療機関等との連携強化
- 新潟大学と行政と地域医療機関連携による次世代高度災害医療人材養成プログラムの実施
 - ・次世代高度災害医療人プログラムアドバンスドコース(2年間)
 - ・災害医療コーディネーターコース(2年間)
 - ・資格認定コース(随時)
- 災害医療ワークショップ、災害医療教育シンポジウム等の開催

成果・効果

- 全国都道府県にとってもモデルとなる、災害医療教育活動体制の構築が可能となる。
- 国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センターと連携し、
全国に災害医療をリードする人材養成とそのカリキュラムの普及を継続的に行う体制が整備され、
常に時代のニーズにあった最先端の高度災害医療人の継続的養成が可能となる。

災害医療教育活動モデル
新潟から! 全国へ発信

国立病院機構災害医療センター



日本赤十字社医療センター



地域医療機関・県医師会

新潟大学災害・復興科学研究所

新潟大学医学部災害医療教育センター

新潟医療人育成センター

実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択

本プログラムは、新潟大学医学部災害医療教育センター、災害・復興科学研究所等の新潟大学組織を中心に、新潟県、新潟薬科大学、新潟医療福祉大学、日本災害医学会、国立病院機構災害医療センター、兵庫県災害医療センター、日本赤十字社医療センターほか全国の組織および、各職域災害認定制度の担当者等と広く連携・協力して実施します。

本事業では「医師」「歯科医師」「薬剤師」「看護師」ほか災害医療関連多職種を対象とし、厚生労働省指針で最重要課題と位置付ける「心のケア」「生活不活発病の予防」「口腔ケア」を中心に、災害医療活動を支える災害医療ロジスティクス専門家養成のプログラムを履修証明プログラムおよび大学院修士課程で実施します。各職域の災害医療ロジスティクス資格取得制度と整合性のあるプログラムとして個別の資格取得も支援し、リーダーとなる実践的な災害医療ロジスティクス専門家を養成するプログラムの全国普及を目指します。



事業の構想

課題

- 人的・物的供給体制を確立するための災害医療ロジスティクス（後方支援・業務調整）の重要性が認識され、各職種でロジスティクス専門家認定制度が模索・開始されつつある。
- しかし、災害医療ロジスティクス専門家を認定制度と連携して組織横断的かつ系統的に養成する機会は現在わが国では提供されていない。

後方視的に過去の学習・経験に基づき認定する現行の認定制度に加え、

前方視的に専門家認定制度（キャリアパス）と連動し、

かつ職種別の現行制度で対応できない職種横断的ロジスティクスも学べる質の高い標準化された

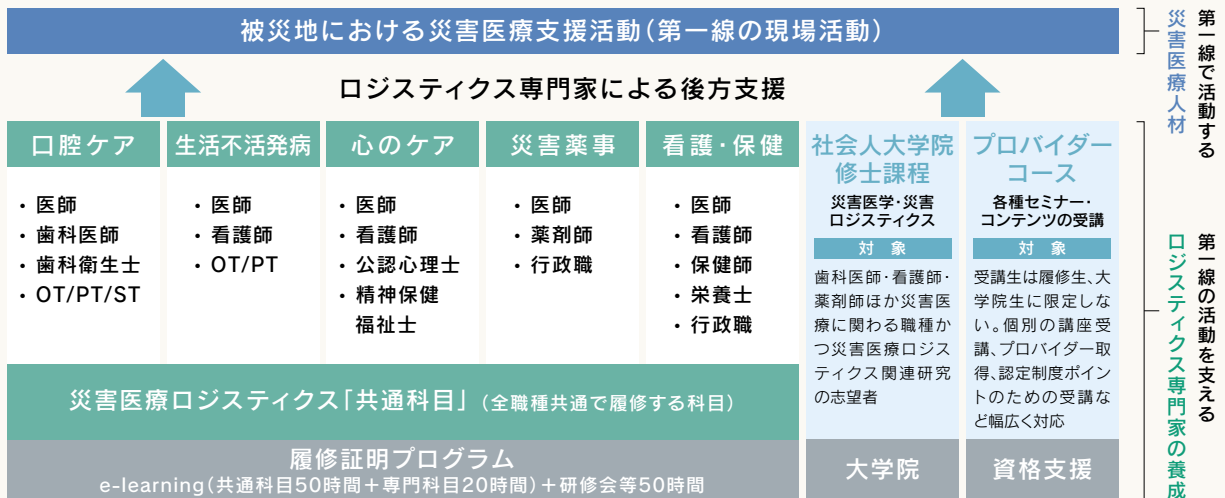
災害医療ロジスティクス専門家養成モデルプログラムの確立・普及

が災害医療教育における喫緊の課題



事業内容

- 1 災害医療ロジスティクス専門家育成の系統的学習プログラムを提供
- 2 e-learningシステムを利用した全国で学習しやすい環境の整備
- 3 職種横断的災害医療ロジスティクスの基本学習＋専門性「医師」「歯科医師」「看護師/保健師」「薬剤師」「OT/PT」「心理士」等専門性を活かした業務調整を学習
- 4 履修証明プログラム+大学院修士課程でキャリア支援
- 5 認定資格取得支援 学会・職域団体の災害医療ロジスティック認定制度との連携
- 6 プロバイダー・ライセンス取得にも対応 単独コンテンツ(セミナー・e-learning)の受講に対応



普及

① e-learningコンテンツのライブラリ配信

災害医療ロジスティクスのe-learningコンテンツと履修管理のシステムを全国の研修実施機関に提供

▶ 全国の災害ロジスティクス関連研修の支援と共通の研修内容の普及

② 認定制度と連携したプログラム・セミナーの提供

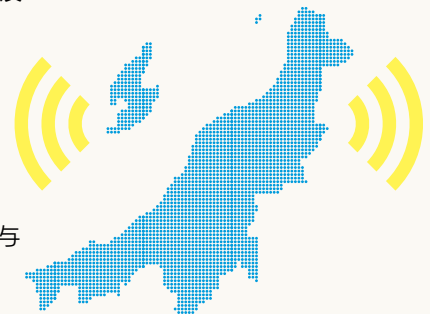
災害医療ロジスティクス専門家の資格取得を目指す社会人のライフスタイルに合わせた受講形態を提供

▶ 全国へ向けたキャリア支援

教育資源(教材・講義)の共有・ライブラリ化により、全国の人材育成に寄与

▶ 日本の災害医療教材の共通資源へ。

新潟大学から
全国へ配信!



災害医療ロジスティクス専門家
養成モデルプログラムを確立し全国に普及

国際人道医療 支援活動

日本政府が実施する様々な国際人道支援活動。国際緊急援助隊（JDR）医療チームの隊員として、また外務省感染症対策チームとして、バヌアツ、ネパール、モザンビーク、コンゴ民主共和国ほか様々な地域に災害医療教育センターの教員を派遣。国際的な人道医療支援活動を実施しています。



国内災害医療 支援活動

東日本大震災以来続く国内の災害、熊本地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震、山形県・新潟県地震、令和元年台風15号による千葉県の水害・停電、そして今回の台風19号河川氾濫など、国内の多くの災害発生に対して、現地の医療調整本部を中心とした支援活動を実施しています。熊本地震において最大の被災地である益城町・上益城医療圏の災害医療調整本部運営も新潟大学災害医療教育センターが実施しました。

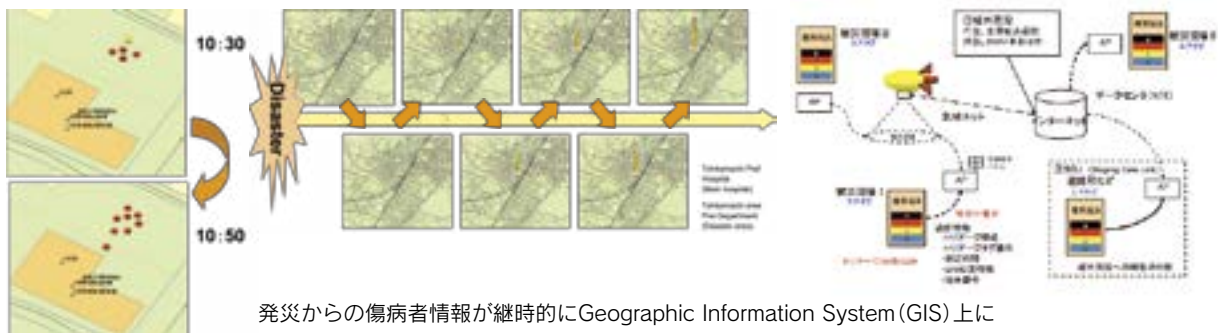


空飛ぶ トリアージタグ (研究活動)

災害医療においては、傷病者情報（傷病の内容・程度、位置、時刻など）を正確に把握し、共有することが極めて重要です。しかし通信の途絶する災害時にそれを実現する方法がありません。大学院災害医学・医療人育成部門では工学部情報工学科牧野研究室と共同で、IT技術を活用し、災害時に傷病者情報をインターネットの地図上でリアルタイムに共有する日本初のシステム「空飛ぶトリアージタグ“AirTag”システム」の研究開発を行っています。



赤道上の通信衛星N-STARがAirTagの情報を伝えます



発災からの傷病者情報が継続的にGeographic Information System (GIS) 上にプロットされ、インターネット上で共有されます。



(拡大)



「空飛ぶトリアージタグ“AirTag”システム」の研究成果は宇宙航空研究開発機構JAXAの広報誌においても紹介されています。

新潟PUSH プロジェクト

PUSHプロジェクトは、学校・職場などにおける簡易型の心肺蘇生の普及を通じて、突然倒れた方を救命できる地域づくりを目指す活動です。「胸をPUSH(胸骨圧迫)」「AEDのボタンをPUSH」「あなた自身をPUSH」の3つのPUSHを通じて、心肺蘇生の大切さと、皆さん自身の果たす役割の大切さを伝えてゆきます。

わずかな知識と一歩前に出る勇気で
あなたに救える命があります



PUSH in 東京国際フォーラム

多職種連携 災害医療訓練

新潟大学医学部災害医療教育センターでは、全国でも例のない多職種連携の災害医療訓練を開催しています。消防のハイパーレスキュー(高度救助隊)、警察広域緊急援助隊特別救助班(P-REX)と合同の狭隘空間活動訓練、新潟空港における多職種参加による広域搬送拠点臨時医療施設(Staging Care Unit)設置訓練、行政・自衛隊・海上保安庁と医療機関はじめ多くの機関が参加するDMAT参集訓練や、保健・行政・避難所運営に関わる机上シミュレーション訓練などのほか日本災害医学会の様々な災害医療関連研修も年間を通じて実施しています。



教育プログラム

発災～復興まで支援する 災害医療人材の養成

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業

発災～復興まで支援する災害医療人材の養成



事業概要

本事業は、新潟大学医学部災害医療教育センターを中心に、新潟医療育成センターと連携して実施する。全国で養成の必要性が叫ばれている高度災害医療人材、すなわち「超急性期から亜急性期、慢性期、復興期まで災害医療の全時相を熟知」し、医療職種はもちろん、他職種・行政機関とも組織横断的に連携して「避けられる災害死」「災害関連健康被害」を最小限に食い止めるマネジメント力を有する次世代高度災害医療人材養成プログラムを実施する。

教育プログラムコースとして、災害医療コーディネーターコース（CCコース）と、次世代高度災害医療人プログラムアドバンスドコース（ACコース）を設定し、医療職と行政の「役割と連携」について、もしくは、災害全時相について幅広く履修する。

また、国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センターなど関係機関とも連携し、平時の備えから実践まで全国地域のリーダーとなる次世代高度災害医療人材を養成、併せて教育カリキュラムの普及を目指す。

履修証明プログラムについて

履修証明プログラムは、社会人等の学生以外を対象（当該大学の学生等の履修を排除するものではありません）として、人材養成目的に応じて必要な講習（授業科目ではない科目）を体系的に編成（総時間数120時間以上）した教育プログラムです。

本学プログラムの履修修了者には、本学から学校

教育法に基づくプログラムであること及びその名称等を示した履修証明書（certificate）を交付します。

今後も本学では、社会人等に対する多様なニーズに応じた、体系的な教育、学習機会の提供を行うことにより、職業キャリア形成の支援に寄与していくことに取り組んでいきます。

プログラムコース・授業科目等の概要

プログラムコースの概要

災害医療コーディネーターコース(CCコース)

近年、災害時における医療者と行政協働による災害医療構築の重要性が認識され、新潟県が全国に先駆けて採用した「災害医療コーディネーター」制度は、現在多くの自治体で採用されている。

平時には災害医療に備える体制を指導・構築できる人材かつ、実災害においては各職域で指導的立場となり、かつ災害医療コーディネートの中心的役割を果たす人材を養成する。

本コースでは、中越沖地震など実災害における大学の災害医療コーディネートの経験を活かし、災害全

時相における災害医療の課題を理解すると同時に、医療職と行政の「役割と連携」を履修する。



次世代高度災害医療人プログラムアドバンスドコース(ACコース)

被災地医療の課題はDMATに代表される超急性期から急性期、慢性期、復興期へと時相と共に変化していく。避難所生活における二次被害(血栓・感染・心のケア)の予防、コミュニティの破壊による老人の孤独死、自殺など多岐に及んでいる。

本コースでは、災害時に必要とされる医療技術の習得と共に、発災から復興期までの全時相における災害医療の特殊性と課題、解決策を理解し、実際の災害において医療職・行政を組織横断的に活用できる知識と技術の習得を目標としている。

平時においては災害医療教育、啓もう活動、行政との連携を实践でき、我が国の災害医療教育の指導的役割を担える高度災害医療人材を養成する。

従来の時相や対象が断片的になりがちな災害医療

対応カリキュラムを見直し、「発災から復興までの全時相」及び「外傷から予防・保健衛生、心のケア、新たな地域医療の確立」まで、災害全時相を幅広く履修する。

また、災害全時相に特有な医療の問題点を予測し、行政と連携してより実効力のある解決方法を提案できる能力を身に付けるため、災害医療コーディネーターコースと共通の履修科目を設定する。



授 業 科 目 等 の 概 要

教育プログラムは主に座学(e-learning聴講含む)、実技・講習会、セミナー等で構成されています。

■ 座学(e-learning聴講含む)

※ ● ● 必修科目

【総論】

科 目 概 要	時 間 数	C C	A C
災害医療概論	【CCコース】 50時間 【ACコース】 50時間	●	●
災害時の医療に関係する主な機関・組織・職種		●	●
災害医療関係法規・制度		●	●
災害医療に係る検討会		●	●
災害時の医療体制		●	●
災害時の調整		●	●
安全管理		●	●
災害時の情報管理		●	●
広域災害救急医療情報システム(EMIS)		●	●
災害時の医療活動の概要		●	●
医療搬送の概要		●	●
医療機関の災害対策と災害対応		●	●
災害医療とロジスティクス		●	●
災害医療に関係する資材と管理		●	●
災害時の精神医療と心理ケア		●	●
災害による死傷者への対応		●	●
災害医療と公衆衛生・プライマリヘルスケア		●	●
災害医療とリハビリテーション		●	●
特殊災害時の医療		●	●
被災者医療		●	●
事態対処医療		●	●
災害医療教育・研修・訓練		●	●
災害時の歯科診療		●	●
災害医療にかかる薬剤管理		●	●
災害時の看護		●	●
災害医療とメディア		●	●
災害医療と費用支弁		●	●
災害医療対策		●	●

※内容は変更する場合があります。

【各論】

▶ 超急性期・急性期以降

科 目 概 要	時 間 数	C C	A C
初期災害医療体制の構築	【CCコース】 20時間以上 【ACコース】 27時間以上	●	●
主な組織の役割とその連携		●	●
医療機関の支援と受援		●	●
病院避難と籠城決心			●
トリアージ			●
主な傷病とその対応			●
医療搬送		●	●
避難所設置と運営		●	●
地域における対応(自助, 共助, 互助, 公助)		●	
災害時要援護者の対応		●	●
生活不活発病とその対策			●

▶ 亜急性期以降

科目概要	時間数	C C	A C
主な組織の役割と連携	【CCコース】 16時間以上 【ACコース】 16時間以上	●	●
診療活動(医療救護所診療, 巡回診療)			●
主な傷病とその対応			●
健康管理		●	●
衛生管理		●	●
栄養管理		●	●
プライバシーへの配慮		●	
被災地域の医療体制の再構築		●	●
仮設住宅		●	
災害関連死とその対策		●	●

▶ 慢性期・復旧復興期以降

科目概要	時間数	C C	A C
主な組織の役割とその連携	【CCコース】 6時間以上 【ACコース】 8時間以上	●	●
主な傷病とその対応			●
健康被害とその対策		●	●
業務継続計画(BCP)		●	
災害医療活動の検証			●

▶ その他

科目概要	時間数	C C	A C
国際人道支援	【CC・ACコース】 7時間以上		
事例紹介・その他		●	●

※内容は変更する場合があります。

■ 実技・講習会

※ ● ● 必修科目

科目概要	時間数	C C	A C
MCLS標準コース			
MCLS-CBRNEコース			
MCLSインストラクターコース			
MCLS-CBRNEインストラクターコース			
JPTECプロバイダーコース			
ETSコース			
DMAT隊員養成研修(1.5日, 2.5日)			

※新潟大学以外の各種主催団体が実施するコースを含みます。(コースへの参加費、交通費、保険料等参加に必要な経費は履修生が負担することとします。)

※本項に記載のない講習会等は、必要に応じて履修時間として認定することがあります。

※本プログラムに関する資格で、令和3年10月1日現在で有効な取得済み資格については、履修時間に考慮することがあります。

■ その他

※ ● ● 必修科目

科目概要	時間数	C C	A C
DMORT養成研修会			
災害医療コーディネーター研修会			
全国災害医療コーディネーター会議			
災害医療に関する各種セミナー			

※本項に記載のない研修会等は、必要に応じて履修時間として認定することがあります。

募集要項

募集人員

- ①災害医療コーディネーターコース(CC) 5名程度
②次世代高度災害医療人プログラムアドバンスドコース(AC) 2名程度

対象者・履修資格

①災害医療コーディネーターコース(CC)

医師(初期臨床研修医は除く)、看護師、助産師、薬剤師、保健師、救急救命士 等医療職
行政職(自治体、消防、警察、海上保安庁、自衛隊他)

※なお、履修科目との整合性から、上記に該当しない医療職及び行政職については、必ずご相談ください。

②次世代高度災害医療人プログラムアドバンスドコース(AC)

医師(初期臨床研修医は除く)、看護師、助産師、薬剤師、保健師、救急救命士 等医療職

※なお、履修科目との整合性から、上記に該当しない医療職については、必ずご相談ください。

履修期間・修了要件

履修期間

①、②のコースともに原則2年間。(更新は6か月毎)

※必要時間の履修ができなかった場合は延長を可能とする。

修了要件

合計120時間以上の履修が必要で、科目毎に小テスト、本テストを実施します(合格点等を設定)。

また、科目に応じてレポートによる評価を実施します。

履修申請について

申請書類等

- ①履修希望届
②履修希望理由書及び活動実績
③卒業証明書・修了証等
(「対象者・履修資格」に記載のある国家資格取得者は不要)

申請書類データは新潟大学医学部災害医療教育センター
ホームページからダウンロードできます。

申請期間

※申請期間を過ぎた申請書は受理できませんので、郵便等の
発送時には十分に考慮してください。

詳しくは新潟大学医学部災害医療教育センター
ホームページをご覧ください

申請書類等の提出方法・提出先

申請書類等を封筒に入れ、必ず書留郵便にて申請期間内に必着するように、送付してください。

<提出先>〒951-8510 新潟県新潟市中央区旭町通1番町757番地 新潟大学医学部災害医療教育センター
(TEL:025-227-2033)

注意事項

- 申請書類の提出は、書留による郵送に限ります。
- 申請書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- 申請書類提出後は、申請書類の返却及び「連絡先」以外の記載事項の変更は認めません。
- 申請書類に虚偽の記載内容があった場合には、履修開始後でも履修許可を取り消すことがあります。
- 障がい等を有する本プログラム履修希望者で、履修上特別の配慮を必要とする場合は、申請期間前に新潟大学医学部災害医療教育センターに申し出てください。

履修生選考・選考結果について

提出された申請書類等を審査して決定いたします。職種、経験年数、学会や社会における活動及び災害医療活動実績等により、履修生の選考を行います。これらにかかる電話等による問い合わせには、一切応じませんので、予めご了承ください。

履修手続について

手続日時

履修手続書類等送付時にお知らせします。

履修証明プログラム受講料

履修証明プログラム受講料は徴収しません。(※令和3年度現在)

ただし、プログラムの教育科目中には、個別に関係団体及び機関が実施する教育科目があり、これらにかかる受講費、交通費、保険料等は、履修生が負担することとします。

例) 都道府県が実施するDMAT隊員研修、MCLSコース等

※本履修証明プログラムは本学において平成27年度より新規に開講したプログラムであり、その内容は試行的に実施する側面があります。そのため受講料を当分の間、徴収しないこととしております。

今後は本履修証明プログラムの評価等を行い、受講料を徴収することを検討しておりますので、予めご了承願います。

勤務先所属長の承諾

履修証明プログラムの受講にあたり、勤務先所属長からの承諾書(所定様式)を提出していただきます。

個人情報保護について

申請に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、履修生選考、選考結果、履修手続及び履修生の管理業務等、これらに付随する業務を行うためのみに、本学において使用します。

また、取得した個人情報は適切に管理し、使用目的以外には使用しません。

その他

履修生の身分について

大学に学生として在籍し、所要の単位を修得して学位を取得するための学位課程とは異なるものであり、新潟大学学生としての身分は付与されませんので、予めご留意願います。

スクーリング時の駐車場について

本プログラムでは、座学のほかプログラムの中で実技実習を実施する科目等があります。新潟医療人育成センターもしくは他の会場等で実施の場合についても、駐車場はありませんので、予めご了承願います。

履修生における注意事項(秘密保持、コンテンツ等無断転用等)

- ①履修生として知り得た秘密を漏らすことは禁止します。履修終了後も同様とします。
- ②e-learningコンテンツを複製、二次利用、公開、無断送信等これらに類する行為を禁止します。また、画面のキャプチャ、コンテンツ音声録音などの保存についても認められません。
- ③講義中の録音、実習風景の撮影(SNS等への使用等)は禁止します。
- ④プログラム履修に伴い発行されるID、パスワード等の情報管理は適切に行い、履修生本人以外には知られることないように十分に注意してください。

パソコンについて

本プログラムではe-learningシステムを使用して、主に座学におけるカリキュラムを遠隔地においても履修可能となるよう、コンテンツ等の充実に取り組んでいます。このe-learningを聴講する際に必要なID等は発行しますが、履修に必要なパソコンの貸し出しは行っておりませんので、予め各自で準備願います。その際、使用するパソコンのセキュリティ対策は十分に実施し(ウイルスソフトのインストールや定期的なオペレーティングシステム(OS)のアップデート等)、サポートが終了しているOSの使用は認めません。なお、ID等は履修生の責任において適切に管理願います。

■ e-learningシステム推奨動作環境 ※令和4年1月現在

パソコン	Windows®	Mac®	Chromebook	スマートフォン／タブレット	Android	iPhone・iPad
OS	●Windows®11 64bit(※1) ●Windows®10 32bit または64bit(※1)(※2)	●macOS 10.15以上	●ChromeOS 最新版	OS	●Android OS 9.0以上	●iOS 13以上、 iPadOS 13以上
ブラウザ	●Chrome 最新版 ●Edge 最新版 ●Firefox 最新版 ●Internet Explorer 11	●Chrome 最新版 ●Safari 最新版 ●Firefox 最新版	●Chrome 最新版	ブラウザ	●Chrome 最新版	●Safari 最新版
モニタ	●解像度1024×768、16ビット以上を表示可能なカラーモニタ					

※Internet Explorer 11は2022年4月に非推奨予定

(※1) タブレット用のUI(キーボードを取り外したときのUI)でのご利用は推奨動作環境対象外です。

キーボードを取り付けてご利用ください。

(※2) Windows 10 Enterprise版またはEducation版をご利用の場合、LOGOSWARE Platonのホームページをご確認ください。

本学のe-learningシステムはLOGOSWARE Platonを使用しております。最新の動作環境はLOGOSWARE Platonのホームページでご確認ください。

※2022年4月にiOS14以上、iPad OS14以上に変更予定

【履修証明プログラム】

次世代高度災害医療人プログラムアドバンスドコース(AC)

大学名等	新潟大学大学院医歯学総合研究科
教育プログラム・コース名	次世代高度災害医療人プログラムアドバンスドコース(AC)
対象者	後期研修医・一般医師・医療職
修業年限(期間)	2年(必要時間の履修ができなかった場合は延長可)
養成すべき人材像	発災から復興期までの全時相における災害医療の特殊性と課題、解決策を理解し、医療職・行政の役割を熟知し、それらの知識と技術を実際の災害において組織横断的に活用できる人材であり、また平時においては災害医療教育、啓もう活動、行政との連携を实践でき、我が国の災害医療教育の指導的役割を担える高度災害医療人材。
修了要件・履修方法	【修了要件】 学校教育法の履修証明プログラムと位置付ける。本コースはプログラム・コースで定めるすべてのカリキュラムの履修が可能。修了要件は、必須科目(96時間)の履修及び、新潟県・新潟大学医学部災害医療教育センターが実施する災害医療コーディネーター研修等の選択必須科目2科目を含め、選択科目と併せ合計120時間以上の履修を修了した者に対して、履修証明書(Certificate)を交付する。 【履修方法】 ハンズオン・実習などは新潟医療人育成センターおよび実習・訓練先において履修する。講義に関しては、原則として新潟医療人育成センターで実施するが、履修者の便宜を図る目的でハンズオンと組み合わせられていない講義はe-learningで提供し、遠隔地や就業などにより聴講の制限などを有する対象者への履修を支援する。
履修科目等	【必修科目】 「災害超急性期」(20時間)、「災害急性期(含:DMORT講演会・実習)」(20時間)、「災害復興期と地域医療(含:災害復興住宅の現地訪問調査)」(20時間+6時間)、「行政機関との連携」(20時間)、「災害医療教育」(10時間) 各々の項目は講義・ハンズオンから構成される(合計96時間) 【選択必修科目(4つの中から2つ以上選択)】 災害医療コーディネーター研修会(6時間)、災害医療の行政対応に関する研修会(6時間)、災害心のケアに関する講演会・実習(6時間)、NBC災害に関する講演会・除染実習(6時間) 【選択科目】 JPTec(6時間)、MCLS(6時間)、ETSプロバイダーコース(6時間)、DMAT資格更新コース(座学+訓練 20時間)、急性期通信技術に関する講習会(6時間)

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	① 災害全時相を学ぶ 従来の災害医療教育は、災害超急性期に限定した技術的研修・学習が主であったが、本カリキュラムにおいては「超急性期～復興期」までの全時相における災害医療の課題を網羅し、災害時の対応と平時の備えの両面から学ぶ。 ② 職域を超えた組織横断的対応を学ぶ 災害医療は「医学」の域を超えた超域の領域であり、行政担当者も参加するプログラム構成により、組織横断的対応を医療者側、行政側双方の立場から学ぶ。 ③ 資格取得を支援し、災害医療教育を普及する人材を育成する 災害医療に関わる資格の取得、更新、インストラクターの養成を支援するとともに、災害医療を広く医療者・一般市民へ普及する人材を養成する。																																			
指導体制	新潟医療人育成センター、新潟大学医学部災害医療教育センターを中心に、専任教員あるいは新潟大学大学院医歯学総合研究科、新潟大学医歯学総合病院、新潟大学災害・復興科学研究所教員により指導を行う。ハンズオン、資格更新コースについては、専任教官および資格を有する学内外のMCLSインストラクター、DMATインストラクター、JPTECインストラクター、ETSインストラクターにより実施する。 その他、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センター、新潟県福祉保健部ほか多くの行政機関から指導者の参加・協力を得てプログラムを実施する。プログラムによって必要な講演者・指導者は広く全国より招聘し、指導に当たる。																																			
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	▶ 本コースは履修証明プログラムとして、既定の要件を満たした修了者には履修証明書(Certificate)を発行し、職業能力証明としてキャリア形成を支援する。修了者は本コースを含む新潟大学医学部災害医療教育センターの主催する災害医療教育にインストラクター・ファシリテーターとして継続的な災害医療教育への参画を支援するとともに、新潟大学災害・復興科学研究所等で実施する災害医療研究活動への参画についても支援する。実災害においては、本学教官と同行し、災害医療コーディネーターをアシストする機会を持たせるなど、積極的に災害現場にも参画を促す。 ▶ コース修了後も継続的な災害医療教育・研究・実践への参加機会を提供する事で、医療者としての高度な専門技術に加え、教育・研究者としてのキャリアを支援し、全国各地の医療機関、災害拠点病院などで本事業で学んだ「全時相・組織横断」を普及、実践できる災害医療教育・研究者と成るべく支援する。																																			
受入開始時期	平成27年4月																																			
受入目標人数	<table><tr><th>対象者</th><th>H26年度</th><th>H27年度</th><th>H28年度</th><th>H29年度</th><th>H30年度</th><th>計</th></tr><tr><td>後期研修医</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>一般医師</td><td>—</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>8</td></tr><tr><td>医療職</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>8</td></tr></table>	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計	後期研修医							一般医師	—	2	2	2	2	8	医療職							計	0	2	2	2	2	8
対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計																														
後期研修医																																				
一般医師	—	2	2	2	2	8																														
医療職																																				
計	0	2	2	2	2	8																														

【履修証明プログラム】

災害医療コーディネーターコース(CC)

大学名等	新潟大学大学院医歯学総合研究科
教育プログラム・コース名	災害医療コーディネーターコース(CC)
対象者	後期研修医・一般医師・医療職・行政職(自治体、消防、警察、海上保安庁・自衛隊ほか)
修業年限(期間)	2年(必要時間の履修ができなかった場合は延長可)
養成すべき人材像	災害全時相における災害医療の課題を理解し、医療職と行政の役割を熟知し、実災害においては各職域で指導的立場となり、平時には災害医療に備える体制を指導・構築できる人材。
修了要件・履修方法	【修了要件】 本コースはプログラム・コースで定めるカリキュラム中、医療者に限定された資格更新コース以外のすべてのプログラムの履修が可能。必須科目32時間の履修をもって修了とする。なお、学校教育法に定める履修証明プログラムとして履修証明書(Certificate)の交付を求める修了要件は、必須科目(32時間)の履修に加え、選択科目と併せ合計120時間以上の履修を修了した者とし、要件を満たした対象者に対しては履修証明書(Certificate)を交付する。 【履修方法】 ハンズオン・実習などは新潟医療人育成センターおよび実習・訓練先において履修する。講義に関しては、原則として新潟医療人育成センターで実施するが、履修者の便宜を図る目的でハンズオンと組み合わせられていない講義はe-learningで提供し、遠隔地や就業などにより聴講の制限などを有する対象者への履修を支援する。
履修科目等	【必修科目】 災害医療コーディネーター研修会(6時間)、災害急性期の行政対応に関する研修会(6時間)、「行政機関との連携」(講義・ハンズオン)(20時間) 【選択科目】 「災害超急性期」(20時間)、「災害急性期(含:DMORT講演会・実習)」(20時間)、「災害復興期と地域医療(含:災害復興住宅の現地訪問調査)」(20時間)、「災害医療教育」(10時間) 各々項目は講義・ハンズオンから構成される。 災害心のケアに関する講演会・実習(6時間)、NBC災害に関する講演会・除染実習(4時間)急性期通信技術に関する講習会(6時間)ETSプロバイダーコース(6時間)

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	職域を超えた組織横断的対応を学ぶ 災害医療は「医学」の域を超えた超域の領域であり、行政担当者も参加するプログラム構成により、組織横断的対応を医療者側、行政側双方の立場から学ぶ。																					
指導体制	新潟医療人育成センター、新潟大学医学部災害医療教育センターを中心に、専任教員あるいは新潟大学大学院医歯学総合研究科、新潟大学医歯学総合病院、新潟大学災害・復興科学研究所教員により指導を行う。ハンズオン、資格更新コースについては、専任教員および資格を有する学内外のMCLSインストラクター、DMATインストラクター、JPTECインストラクター、ETSインストラクターにより実施する。 その他、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センター、新潟県福祉保健部ほか多くの行政機関から指導者の参加・協力を得てプログラムを実施する。プログラムによって必要な講演者・指導者は広く全国より招聘し、指導に当たる。																					
教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想	▶本コース修了者は、本コースを含む新潟大学医学部災害医療教育センターの主催する災害医療教育、特に災害医療のコーディネートに関するプログラムへのインストラクター・ファシリテーターとして、継続的な災害医療教育への参加機会を提供・支援する。災害医療の「医学」と「行政」を融合させる組織横断の実践者であり、教育者である人材を養成し、今後増加する災害医療コーディネーター制度を採用する自治体を核となって支援・参画できる人材とする。 ▶本コース参加者で、引き続き研究を継続する場合には、将来的に医学部以外の学部卒業生に対し「災害医療学」を専攻する大学院修士課程へ発展するべくキャリア支援をし、「裾野の広い災害医療を科学する行政人材」の養成を目指す。																					
受入開始時期	平成27年4月																					
受入目標人数	<table><tr><th>対象者</th><th>H26年度</th><th>H27年度</th><th>H28年度</th><th>H29年度</th><th>H30年度</th><th>計</th></tr><tr><td>後期研修医 一般医師 医療職 行政職</td><td>—</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>20</td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>20</td></tr></table>	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計	後期研修医 一般医師 医療職 行政職	—	5	5	5	5	20	計	0	5	5	5	5	20
対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計																
後期研修医 一般医師 医療職 行政職	—	5	5	5	5	20																
計	0	5	5	5	5	20																

【履修証明プログラム】

資格認定コース(LC) (インテンシブ)

大学名等	新潟大学大学院医歯学総合研究科																																															
教育プログラム・コース名	資格認定コース(LC) (インテンシブ)																																															
対象者	各ライセンスコースの規定に準ずる																																															
修業年限(期間)	その都度																																															
養成すべき人材像	災害医療に関連する資格を取得し、実災害においてはその技術を実践できる人材であり、また平時は各コースの運営、啓蒙・教育活動に資する人材。																																															
修了要件・履修方法	DMAT、MCLS、ETS、JPTECの各コース受講者資格に準じる。 資格の取得は各コースのプロバイダー及びインストラクター認定要件に従う。 資格取得をプレコース(ナイトセミナー)で支援する。																																															
履修科目等	【選択科目】 DMAT資格更新コース(座学)、MCLS、ETS、JPTECプロバイダーコース																																															
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	資格取得を支援し、災害医療教育を普及する人材を養成する。 災害医療に関わる資格の取得、更新、インストラクターの養成を支援するとともに、災害医療を広く医療者・一般市民へ普及する人材を養成する。																																															
指導体制	新潟医療人育成センター、新潟大学医学部災害医療教育センターを中心に、専任教員あるいは新潟大学大学院医歯学総合研究科、新潟大学医歯学総合病院、新潟大学災害・復興科学研究所教員により指導を行う。ハンズオン、資格更新コースについては、専任教員および資格を有する学内外のDMATインストラクター、MCLSインストラクター、ETSインストラクター、JPTECインストラクターにより実施する。 その他、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センター、新潟県福祉保健部ほか多くの行政機関から指導者の参加・協力を得てプログラムを実施する。プログラムによって必要な講演者・指導者は広く全国より招聘し、指導に当たる。																																															
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	▶本コースでプロバイダー、インストラクターを取得した者は、各コースの資格を活かして、新潟大学医学部災害医療教育センターで主催するそれぞれのコースのインストラクター、ファシリテーターとしての参加機会を提供する。この事により、プロバイダーは実災害において、それぞれの習得した技術を活かせる知識の技術の定着が図られる。 また、インストラクター資格者は技術の普及・教育活動の機会を得る事により、各コースを主催し、より多くのプロバイダーを生み出す能力を身につける機会を得る。																																															
受入開始時期	平成26年10月																																															
受入目標人数	<table><tr><th>対象者</th><th>H26年度</th><th>H27年度</th><th>H28年度</th><th>H29年度</th><th>H30年度</th><th>計</th></tr><tr><td>DMAT</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td><td>75</td></tr><tr><td>MCLS</td><td>－</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>64</td></tr><tr><td>ETS</td><td>－</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>64</td></tr><tr><td>JPTEC</td><td>－</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td><td>80</td></tr><tr><td>計</td><td>15</td><td>67</td><td>67</td><td>67</td><td>67</td><td>283</td></tr></table>						対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計	DMAT	15	15	15	15	15	75	MCLS	－	16	16	16	16	64	ETS	－	16	16	16	16	64	JPTEC	－	20	20	20	20	80	計	15	67	67	67	67	283
対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計																																										
DMAT	15	15	15	15	15	75																																										
MCLS	－	16	16	16	16	64																																										
ETS	－	16	16	16	16	64																																										
JPTEC	－	20	20	20	20	80																																										
計	15	67	67	67	67	283																																										

教育プログラム

実践的災害医療 ロジスティクス専門家の養成

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業

実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成



事業概要

本事業は、新潟大学医学部災害医療教育センター、災害・復興科学研究所等の新潟大学組織を中心に、各関連機関等と広く連携・協力して実施する。本事業では「医師」「歯科医師」「薬剤師」「看護師」ほか災害医療関連多職種を対象とし、厚生労働省指針で最重要課題と位置付ける「心のケア」「生活不活発病の予防」「口腔ケ

ア」を中心に、災害医療活動を支える災害医療ロジスティクス専門家養成のプログラムを実施する。各職域の災害医療ロジスティクス資格取得制度と整合性のあるプログラムとして個別の資格取得も支援し、リーダーとなる実践的な災害医療ロジスティクス専門家を養成する。

履修証明プログラムについて

履修証明プログラムは、社会人等の学生以外を対象（当該大学の学生等の履修を排除するものではありません）として、人材養成目的に応じて必要な講習（授業科目ではない科目）を体系的に編成（総時間数120時間以上）した教育プログラムです。

本学プログラムの履修修了者には、本学から学校教育法に基づくプログラムであること及びその名称等を

示した履修証明書（certificate）を交付します。

今後も本学では、社会人等に対する多様なニーズに応じた、体系的な教育、学習機会の提供を行うことにより、職業キャリア形成の支援に寄与していくことに取り組んでいきます。

＜参考ホームページ＞文部科学省：大学等の履修証明制度について

プログラムコース・授業科目等の概要

プログラムコースの概要

災害医療ロジスティクス専門家コース

災害医療において「発災超急性期から復興期まで」「多職種連携」の重要性が認識され、本学から「災害における医療の質の向上と組織間マネジメント」に精通する高度災害医療人材が多職種領域に輩出されている。一方で、近年の東日本大震災・熊本地震の経験から、これら災害医療支援の第一線での活動を土台から支える人的・物的供給体制を確立するための災害医療ロジスティクス（後方支援・業務調整）の重要性が認識されてきた。

災害医療ロジスティクスが第一線活動の成否を握ると認識された現在、各職域の災害医療認定制度に求められる学習内容を包含し、各専門職域の特殊性と組織間連携を理解し、災害全時相に対応できる「実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成」を系統的に実施する教育プログラムの確立と全国への普及は喫緊の課題である。

本コースでは、災害時における急性期から慢性期・復興期までを視野に活動する医療チームの医療支援活動の実施と、その実施を可能とする専門性を活かしたロジスティクス（後方支援・業務調整）が実施でき、人的物的資源や通信環境の整備などを含めて組織横断的に活動でき、かつその人材が地域において災害ロジスティクス教育の指導的立場として普及に寄与できる災害医療ロジスティクス専門家を養成する。

また、上記に加えてサブスペシャリティとして「心のケア」「生活不活発病」「口腔ケア」「看護・保健」「災害薬事」を選択し、履修生の専門職域に特化した、組織横断的かつ専門性を有した災害医療ロジスティクス専門家を養成する。



授業科目等の概要

教育プログラムは主に座学(e-learning聴講含む)、実技・講習会、セミナー等で構成されています。

■ 座学(e-learning聴講含む)

▶ 共通科目

科目概要	時間数
災害医療概論	50 時間
災害医療ロジスティクス概論	
災害医療の人的資源・関係機関等に関するロジスティクス	
災害医療の物的資源・輸送に関するロジスティクス	
災害医療の情報管理・通信に関するロジスティクス	
災害医療の活動環境・後方支援に関するロジスティクス	
災害医療のマネジメント、コーディネーションに関するロジスティクス	
災害医療における安全管理・マナー等について	
災害医療での受援に関するロジスティクス	
事例紹介（国際人道支援等を含む）	

※内容は変更する場合があります。

▶ 専門科目 専門分野（各20時間）を選択

専門分野	科目概要	時間数
こころのケア	災害時のメンタルヘルスケア総論	20 時間以上
	災害時の遺族ケア、支援者・行政のストレスケア	
	DPAT のマネジメント	
	こころのケアチームの活動支援	
	子供ひろばのマネジメント	
	スフィアプロジェクトにおけるこころのケア	
生活不活発病	生活不活発病概論（病態、予防、他）	
	災害時のリハビリテーション（外傷、支援活動、感染対策等）	
	リハビリテーションチームのマネジメント	
	災害時の食事に関するロジスティクス対応	
	災害リハ 活動事例	
口腔ケア	災害歯科概論（災害医療体制と歯科）	
	避難所における口腔ケア	
	口腔ケアチームのマネジメント	
	口腔ケア資材のロジスティクス	
	歯科における災害関連法規	
	歯科医院における災害対策	
看護・保健	災害看護概論	
	災害時の疾病と外傷	
	避難所・福祉避難所開設へのロジスティクス	
	保健師の災害時活動に関するロジスティクス	
	施設・地域における平時からの活動	
災害薬事	災害看護教育	
	災害薬事概論	
	災害時の疾病概論	
	薬剤師の災害時活動に関するロジスティクス	
	災害薬事コーディネーションについて	
	薬局、病院薬剤部門のBCP	

※内容は変更する場合があります。

■ 実技・講習会・セミナー等(50時間以上)

新潟大学及び各種主催団体が実施する災害医療に関する実技・講習会・セミナー等を受講してください。(コースへの参加費、交通費、保険料等参加に必要な経費は履修生が負担することとします。)履修時間として認定いたします。

※本プログラムに関する資格で、令和3年10月1日現在で有効な取得済み資格については、履修時間に考慮することがあります。

募集要項

募集人員

災害医療ロジスティクス専門家コース…14名程度

対象者・履修資格

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・保健師・歯科衛生士・歯科技工士・理学療法士・作業療法士・精神保健福祉士・公認心理師・栄養士・行政職種ほか、災害医療に携わる関連職種

※なお、履修科目との整合性から、上記に該当しない医療職及び行政職については、必ずご相談ください。

履修期間・修了要件

履修期間

原則2年間。(更新は6か月毎)

※必要時間の履修ができなかった場合は延長を可能とする。

修了要件

合計120時間以上の履修が必要で、科目毎に小テスト、本テストを実施します(合格点等を設定)。

また、科目に応じてレポートによる評価を実施します。

履修申請について

申請書類等

①履修希望届

②履修希望理由書及び活動実績

③卒業証明書・修了証等

(「対象者・履修資格」に記載のある国家資格取得者は不要)

申請書類データは新潟大学医学部災害医療教育センター
ホームページからダウンロードできます。

申請期間

詳しくは新潟大学医学部災害医療教育センター
ホームページをご覧ください

申請書類等の提出方法・提出先

申請書類等を封筒に入れ、必ず書留郵便にて申請期間内に必着するように、送付してください。

＜提出先＞〒951-8510 新潟県新潟市中央区旭町通1番町757番地 新潟大学医学部災害医療教育センター
(TEL:025-227-2033)

注意事項

- 申請書類の提出は、書留による郵送に限ります。
- 申請書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- 申請書類提出後は、申請書類の返却及び「連絡先」以外の記載事項の変更は認めません。
- 申請書類に虚偽の記載内容があった場合には、履修開始後でも履修許可を取り消すことがあります。
- 障がい等を有する本プログラム履修希望者で、履修上特別の配慮を必要とする場合は、申請期間前に新潟大学医学部災害医療教育センターに申し出てください。

履修生選考・選考結果について

提出された申請書類等を審査して決定いたします。職種、経験年数、学会や社会における活動及び災害医療活動実績等により、履修生の選考を行います。これらにかかる電話等による問い合わせには、一切応じませんので、予めご了承ください。

履修手続について

手続日時.....

履修手続書類等送付時にお知らせします。

履修証明プログラム受講料.....

履修証明プログラム受講料は徴収しません。（※令和3年度現在）

ただし、プログラムの教育科目中には、個別に関係団体及び機関が実施する教育科目があり、これらにかかる受講費、交通費、保険料等は、履修生が負担することとします。

例）都道府県が実施するDMAT隊員研修、MCLSコース等

※本履修証明プログラムは本学において平成27年度より新規に開講したプログラムであり、その内容は試行的に実施する側面があります。そのため受講料を当分の間、徴収しないこととしております。

今後は本履修証明プログラムの評価等を行い、受講料を徴収することを検討しておりますので、予めご了承ください。

勤務先所属長の承諾.....

履修証明プログラムの受講にあたり、勤務先所属長からの承諾書（所定様式）を提出していただきます。

個人情報保護について

申請に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、履修生選考、選考結果、履修手続及び履修生の管理業務等、これらに付随する業務を行うためのみに、本学において使用します。

また、取得した個人情報は適切に管理し、使用目的以外には使用しません。

その他

履修生の身分について

大学に学生として在籍し、所要の単位を修得して学位を取得するための学位課程とは異なるものであり、新潟大学学生としての身分は付与されませんので、予めご留意願います。

スクーリング時の駐車場について

本プログラムでは、座学のほかプログラムの中で実技実習を実施する科目等があります。新潟医療人育成センターもしくは他の会場等で実施の場合についても、駐車場はありませんので、予めご了承願います。

履修生における注意事項（秘密保持、コンテンツ等無断転用等）

- ①履修生として知り得た秘密を漏らすことは禁止します。履修終了後も同様とします。
- ②e-learningコンテンツを複製、二次利用、公開、無断送信等これらに類する行為を禁止します。また、画面のキャプチャ、コンテンツ音声録音などの保存についても認められません。
- ③講義中の録音、実習風景の撮影（SNS等への使用等）は禁止します。
- ④プログラム履修に伴い発行されるID、パスワード等の情報管理は適切に行い、履修生本人以外には知られることないよう十分に注意してください。

パソコンについて

本プログラムではe-learningシステムを使用して、主に座学におけるカリキュラムを遠隔地においても履修可能となるよう、コンテンツ等の充実に努めております。

このe-learningを聴講する際に必要なID等は発行しますが、履修に必要なパソコンの貸し出しは行っておりませんので、予め各自で準備願います。その際、使用するパソコンのセキュリティ対策は十分に実施し（ウイルスソフトのインストールや定期的なオペレーティングシステム（OS）のアップデート等）、サポートが終了しているOSの使用は認めません。

なお、ID等は履修生の責任において適切に管理願います。

■ e-learningシステム推奨動作環境 ※令和4年1月現在

パソコン	Windows®	Mac®	Chromebook	スマートフォン／タブレット	Android	iPhone・iPad
OS	●Windows® 11 64bit(※1) ●Windows® 10 32bit または64bit(※1)(※2)	●macOS 10.15以上	●ChromeOS 最新版	OS	●Android OS 9.0以上	●iOS 13以上、 iPadOS 13以上
ブラウザ	●Chrome 最新版 ●Edge 最新版 ●Firefox 最新版 ●Internet Explorer 11	●Chrome 最新版 ●Safari 最新版 ●Firefox 最新版	●Chrome 最新版	ブラウザ	●Chrome 最新版	●Safari 最新版
モニタ	●解像度1024×768、16ビット以上を表示可能なカラーモニタ					

※Internet Explorer 11は2022年4月に非推奨予定

(※1) タブレット用のUI(キーボードを取り外したときのUI)でのご利用は推奨動作環境対象外です。
キーボードを取り付けてご利用ください。

(※2) Windows10 Enterprise版またはEducation版をご利用の場合、LOGOSWARE Platonのホームページをご確認ください。

本学のe-learningシステムはLOGOSWARE Platonを使用しております。最新の動作環境はLOGOSWARE Platonのホームページでご確認ください。

※2022年4月にiOS14以上、iPad OS14以上に変更予定

【履修証明プログラム】

災害医療ロジスティクス専門家コース

大学名等	新潟大学大学院医歯学総合研究科
教育プログラム・コース名	【履修証明プログラム】災害医療ロジスティクス専門家コース
対象者	医師・歯科医師・薬剤師・看護師・保健師・歯科衛生士・歯科技工士・理学療法士・作業療法士・精神保健福祉士・公認心理師・栄養士・行政職種ほか、災害医療に携わる関連職種
修業年限(期間)	2年
養成すべき人材像	災害時における急性期から慢性期・復興期までを視野に活動する医療チームの医療支援活動の実施と、その実施を可能とする専門性を活かしたロジスティクス(後方支援・業務調整)が実施でき、人的物的資源や通信環境の整備などを含めて組織横断的に活動でき、かつその人材が地域において災害ロジスティクス教育の指導的立場として普及に寄与できる「災害医療ロジスティクス専門家」を養成する。 また、上記に加えてサブスペシャリティとして「心のケア」「生活不活発病」「口腔ケア」「看護・保健」「災害薬事」を選択し、履修生の専門職域に特化したロジスティクスについても履修し、組織横断的かつ専門性を有した災害医療ロジスティクス専門家を養成する。
修了要件・履修方法	①e-learningにより「共通科目」50時間以上、かつ「選択した専門(サブスペシャリティ)科目」20時間以上を受講し、それぞれのWeb試験に合格すること。 ②新潟大学医学部災害医療教育センター、もしくは全国で実施する災害医療ロジスティクスに関する研修会で、当センターが単位認定をすると定めた研修会を受講し、50時間以上受講すること。 上記①②のいずれも満たし、計120時間以上の履修を修了したものに対して、新潟大学より履修証明書(Certificate)を交付する。
履修科目等	【共通科目】 「災害医療と救急医療」「災害初動対応」「避難所運営マニュアル」「行政対応の基本方針(急性期・慢性期・復興期)」「特殊災害のロジスティクス」「災害医療における関連法規」「災害医療通信の確立」「避難所アセスメント」「J-SPEEDの活用」「災害関連死亡と対策」「人道支援のスフィア基準」「心理的応急処置(PFA)」「災害医療コーディネート制度」「SCU活動とロジスティクス」ほか60時間 【専門科目】 「避難所における口腔ケア」「口腔ケアチームのマネジメント」「口腔ケア資材の種類と物流」「嚥下リハビリチームの要請と展開」「DPATのマネジメント」「心のケアチームの活動支援」「子供ひろばのマネジメント」「生活不活発病予防の対応」「JRATのマネジメント」「避難所におけるリハビリテーションのニーズ」「被災地病院薬剤師支援マネジメント」「急性期の薬剤流通の仕組み」「救護所における薬剤師の業務」「アレルギー食への対応」「必要衛生材料の把握と調達」「福祉避難所開設へのロジスティクス」ほか、各サブスペシャリティ別に20時間

教育内容の特色等 (新規性・独創性)	1) 災害医療ロジスティクス(後方支援・業務調整)を学ぶ 従来より当センターでは「災害全時相・職種横断的な災害連携医療活動」について「なにをするべきか」についての学習機会を提供してきた。しかし「なすべきこと」を実際に行うためには、一方でロジスティクスの知識や具体的なノウハウの専門家が必要である。このような背景から日本災害医学会において認定災害医療ロジスティクス専門家制度が開始されることとなった。本プログラムは従来日本では系統的な学習機会が提供されていなかった「災害医療ロジスティクス」を系統的に学習する初めてのプログラムであり、認定災害医療ロジスティクス専門家の認定要件を十分に担保し、かつ指導的役割を果たしうるレベルまで学習できる全国初のプログラムである。 2) サブスペシャリティーで専門性を活かす 職種横断的な活動が可能となるための共通科目に加え、それぞれの専門職種ならではの災害医療ロジスティクスを学び、俯瞰的視点と専門性を兼ね備えた災害医療ロジスティクス専門家を育成するプログラムとなっている。認定災害ロジスティクス専門家制度においても職域別の専門性については言及していないが、実際災害においてはより職種専門的な業務調整能力が求められている。本プログラムでは、職種の専門性を活かした業務調整能力のある専門家育成にいち早く着手したプログラムである。 3) ニーズに応じたロジスティクス専門家の育成 災害全時相に職種横断的なロジスティクス能力を身につけ、かつ職種に応じた専門性を有していたとしても、それが実際の現場のニーズに応じた活動に繋がらなければならない。本プログラムでは厚生労働省の指針に示されている災害関連死亡の重大な課題である「口腔ケア」「心のケア」「生活不活発病予防」という現場でのニーズから逆算してプログラムの組み立てを実施している。本プログラムの修了者が直ちに災害現場の重大な課題に専門性と俯瞰性を持ち合わせてロジスティクス活動に従事できるように工夫されている。 4) 全国で働きながら学べる学習環境の提供 通学を要さないe-learningによる学習と学習履歴管理システムによる双方向性授業を実施。更に全国で開催される災害医療ロジスティクス関連研修も単位認定。新潟大学への通学を義務化せず、働きながら、地元で、子育てしながら、など男女を問わず様々なライフスタイルに合わせた履修が可能なプログラムに工夫されている。																																																	
	指導体制	新潟大学医学部災害医療教育センター、新潟医療人育成センター、新潟大学大学院医歯学総合研究科新潟地域医療学講座災害医学・医療人育成部門の専任教員、あるいは新潟大学医歯学総合病院、新潟大学災害・復興科学研究教員、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センター、国立健康・栄養研究所、新潟薬科大学、新潟医療福祉大学、神奈川歯科大学、新潟大学歯学部、新潟県福祉保健部ほか、全国の災害医療・災害医療ロジスティクスの専門家によるプログラム計画の立案から実際のe-learningコンテンツの作成にあたり、またセミナーの開催においては全国から各領域専門指導者を招聘して指導に当たる。																																																
	教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	▶本コースは履修証明プログラムとして規定の要件を満たした修了者には履修証明書(Cirtificate)を発行し、職業能力証明としてのキャリア形成を支援する。修了者には本プログラムを含む新潟大学医学部災害医療教育センターの主催するセミナーなどにインストラクター、ファシリテーターとして継続的な災害医療教育への参画機会を提供。日本災害医学会認定災害医療ロジスティクス専門家制度の認定へ向けた指導を実施し、実災害においてもロジスティクス専門家として活躍する機会が得られるように支援する。																																																
	受入開始時期	平成31年10月																																																
	受入目標人数	<table><tr><td>対象者</td><td>H30 年度</td><td>H31 年度</td><td>R2 年度</td><td>R3 年度</td><td>R4 年度</td><td>計</td></tr><tr><td>医師</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>0</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>11</td></tr><tr><td>看護師</td><td>0</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>15</td></tr><tr><td>その他</td><td>0</td><td>1</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>16</td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>8</td><td>14</td><td>14</td><td>14</td><td>50</td></tr></table>	対象者	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	計	医師	0	1	1	1	1	4	歯科医師	0	1	1	1	1	4	薬剤師	0	2	3	3	3	11	看護師	0	3	4	4	4	15	その他	0	1	5	5	5	16	計	0	8	14	14	14
対象者	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	計																																												
医師	0	1	1	1	1	4																																												
歯科医師	0	1	1	1	1	4																																												
薬剤師	0	2	3	3	3	11																																												
看護師	0	3	4	4	4	15																																												
その他	0	1	5	5	5	16																																												
計	0	8	14	14	14	50																																												

【大学院医科学専攻修士課程】

災害医学（災害ロジスティクス）

大学名等	新潟大学大学院医歯学総合研究科
教育プログラム・コース名	【大学院医科学専攻修士課程】災害医学（災害ロジスティクス）
対象者	4年制大学卒業者で災害医療ロジスティクスをテーマとして研究し、将来的に災害医療領域の専門家として「研究」「教育」「職域における指導的立場」として携わる意思のあるもの。
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	災害時における急性期から慢性期・復興期までを視野に活動する医療チームの医療支援活動の実施と、その実施を可能とする専門性を活かしたロジスティクス（後方支援・業務調整）に関連するテーマで研究活動を実施し、修了後は「心のケア」「生活不活発病」「口腔ケア」「看護・保健」「災害薬事」の分野に関する研究活動を自立的に継続し、教育機関において学問的背景をもった災害医療ロジスティクスの指導者となり得る人材を養成する。
修了要件・履修方法	新潟大学大学院医歯学総合研究科医科学専攻（修士課程）の修了要件（次項目合計30単位修得及び修士論文公開審査会の合格をもって修了）
履修科目等	● 講義科目16単位（「人体の構造」「分子細胞医科学」「病気とその原因」「脳と心の医科学」「医学と社会」「感染と免疫」「医科学研究法」「臨床医学入門」）の履修 ● 医科学総合演習4単位（論文購読・研究技術の修得） ● 医科学研究特論（2年間の研究成果のまとめ 修士論文10単位） ● 修士論文公開審査会

教育内容の特色等 (新規性・独創性)	●災害医療ロジスティクス(後方支援・業務調整)を研究する 社会医学系領域における研究活動は多くの場合長期の追跡研究を必要とし、2年間という修士課程の期間に馴染まないことと、災害医療においてはその調査フィールドが常時ないことから、前向きコホート研究の計画を立てにくいという課題がある。そのため、研究対象となりにくく、学問として災害医療ロジスティクスに取り組む研究はほとんど見られない。新潟県においては、中越地震および中越沖地震の被災地があり、また東日本大震災からの避難移住者も多く、後ろ向きコホート研究のフィールドが確保されている。このことより、被災地大学でもある新潟大学ならではの災害医療ロジスティクスを学問研究する機会を提供でき、また研究成果は学問的にも貴重な資料となることが期待される。																								
指導体制	講義科目については、新潟大学大学院医歯学総合研究科担当教員により、また医科学総合演習、医科学研究特論については、新潟大学医学部災害医療教育センター、新潟大学大学院医歯学総合研究科新潟地域医療学講座災害医学・医療人育成部門の専任教員、新潟薬科大学教員(特別研究生登録により)、新潟大学災害・復興科学研究所教員らにより指導される。																								
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	▶社会人大学院修士課程修了後は修士(医学)が授与される。修士課程修了後の進路はその後の博士課程大学院への進学、研究者・教官としての任用を目標とする場合と、現職における学問的背景を基盤とした指導的立場での勤務・人材育成への貢献と、専門性を活かしての実災害での活動が期待される。																								
受入開始時期	平成31年4月																								
受入目標人数	<table><tr><th>対象者</th><th>H30 年度</th><th>H31 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>計</th></tr><tr><td>歯科医師</td><td rowspan="4">0</td><td rowspan="4">1</td><td rowspan="4">1</td><td rowspan="4">1</td><td rowspan="4">1</td><td rowspan="4">4</td></tr><tr><td>薬剤師</td></tr><tr><td>看護師</td></tr><tr><td>その他</td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td></tr></table>	対象者	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	計	歯科医師	0	1	1	1	1	4	薬剤師	看護師	その他	計	0	1	1	1	1	4
対象者	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	計																			
歯科医師	0	1	1	1	1	4																			
薬剤師																									
看護師																									
その他																									
計	0	1	1	1	1	4																			

【履修証明プログラム】

【資格認定コース】（インテンシブ）

大学名等	新潟大学大学院医歯学総合研究科
教育プログラム・コース名	【資格認定コース】（インテンシブ）
対象者	各資格認定コースの規定に準ずる。
修業年限（期間）	その都度
養成すべき人材像	認定災害医療ロジスティクス専門家制度、各学会・職域団体の災害医療認定制度において必要とされる資格を取得し、実災害においてはその技術を実践でき、かつ平時においては各コースの運営、啓蒙、教育活動に資する人材。
修了要件・履修方法	各資格認定コースの修了要件に準ずる。
履修科目等	●PhDLS（災害医療認定薬剤師研修会）プロバイダーコース、インストラクターコース ●BHELP（地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース）プロバイダーコース、インストラクターコース ●災害医療ロジスティクス研修会 ●災害時通信（EMIS）研修 ●その他 認定制度委員会と協議の上で順次追加

教育内容の特色等 (新規性・独創性)	●学会・職能団体における災害関連資格取得を支援する。 日本災害医学会で開始される災害医療ロジスティクス専門家認定制度(認定ロジ、上級認定ロジ)の申請基準に示される予定(本申請書作成段階では未公開)の研修会(上記履修科目は一部のみ記載)を開催・受講機会を提供し、認定資格取得を支援する。 その他、災害医療認定薬剤師制度の認定要件であるPhDLS、災害看護専門看護師制度の履修内容とも連動し、必要な研修会を認定制度の制度整備に併せて開催してゆく。これらは、各制度の設計担当委員が本プログラム委員として参画し、認定制度と一体化した資格認定コースを拡充してゆく。 このことから、履修科目については順次拡充する予定となっている。																																																	
指導体制	各研修会の管理世話人、世話人、インストラクターを学内外より招聘して、学会等の正規認定コースとして開催する。既存の研修コース以外の新規コースに関しても全国より専門指導者を招聘し、学会等の制度に一致した内容が提供できる体制とする。																																																	
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	▶プロバイダー取得者は、実災害において受講内容の実践、またインストラクター取得者については普及・教育に携わることが期待される。さらに、それぞれのプロバイダー、インストラクターを要件とする学会・職域団体の災害医療(ロジスティクス)認定制度の取得により、災害医療を支える専門家としての実践と教育普及に携わることを期待する。																																																	
受入開始時期	平成30年10月																																																	
受入目標人数	<table><tr><th>対象者</th><th>H30 年度</th><th>H31 年度</th><th>R2 年度</th><th>R3 年度</th><th>R4 年度</th><th>計</th></tr><tr><td>PhDLS</td><td>24</td><td>36</td><td>36</td><td>36</td><td>36</td><td>168</td></tr><tr><td>BHELP</td><td>24</td><td>36</td><td>36</td><td>36</td><td>36</td><td>168</td></tr><tr><td>災害ロジ研修</td><td>0</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td><td>80</td></tr><tr><td>EMIS</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>80</td></tr><tr><td>その他</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>64</td><td>108</td><td>108</td><td>108</td><td>108</td><td>496</td></tr></table>	対象者	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	計	PhDLS	24	36	36	36	36	168	BHELP	24	36	36	36	36	168	災害ロジ研修	0	20	20	20	20	80	EMIS	16	16	16	16	16	80	その他	0	0	0	0	0	0	計	64	108	108	108	108	496
対象者	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	計																																												
PhDLS	24	36	36	36	36	168																																												
BHELP	24	36	36	36	36	168																																												
災害ロジ研修	0	20	20	20	20	80																																												
EMIS	16	16	16	16	16	80																																												
その他	0	0	0	0	0	0																																												
計	64	108	108	108	108	496																																												

活 動 報 告

R E P O R T

■活動報告の詳細内容は新潟大学医学部災害医療教育センターホームページでご覧いただけます。
<https://www.med.niigata-u.ac.jp/disaster/contents/reports/>

活動報告 ≫ 生活不活発病・口腔ケア

第4回新潟県災害リハビリテーション研修会



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2018年11月18日(日)

第5回新潟県災害リハビリテーション研修会 大規模災害リハビリテーション支援チーム本部運営 ゲーム(REHUG)



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年10月27日(日)

令和元年度新潟県災害医療研修会(上越地区)



【場 所】
上越総合病院(新潟県上越市)
【開催日時】
2019年11月22日(金)

令和元年度新潟県災害医療研修会(中越地区)



【場 所】
長岡赤十字看護専門学校(新潟県長岡市)
【開催日時】
2019年11月23日(土)

令和元年度新潟県災害医療研修会(下越地区)



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年11月21日(木)

第25回日本災害医学会総会・学術集会ランチョンセミナー #6「災害時の健康被害を未然に防ごう!～災害時の食と 栄養～」



【場 所】
神戸国際会議場(兵庫県神戸市)
【開催日時】
2020年2月22日(土)

令和2年度災害歯科保健医療アドバンス研修会に 講師として協力しました

【場 所】 Zoomによるオンラインセミナー
【開催日時】 2020年10月18日(日)
【講 師】 和泉邦彦

新潟大学医学部災害医療教育センター事業報告 & キックオフセミナー

【場 所】 新潟医療人育成センター4階ホール(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】 2019年1月29日(火)

【災害医療×感染症×「食べる」】WEB講演会（公募）



【場 所】
Zoomビデオウェビナーによる
Webセミナー
【開催日時】
2020年8月1日(土)
【講 師】
東京医科歯科大学 中久木康一／
国立健康・栄養研究所 国際災害栄
養研究室 笠岡(坪山)宣代

【災害医療×感染症×命の入口と出口】WEB講演会 「分散避難…自宅で避難するために～健康を保つ・ 食べるを守る～」



【場 所】
Zoomビデオウェビナーによる
オンラインセミナー
【開催日時】
2020年9月27日(日)
【講 師】
中久木 康一／瀬川義雄／加藤 隆

大好評第2弾！「新型コロナ時代の被災者の食・ 栄養課題～分散避難、感染防止と支援のジレンマ～」



【場 所】
第26回日本災害医学会総会・学術
集会内Zoomビデオウェビナー
【開催日時】
2021年3月16日(火)
【講 師】
熊本YMCA 丸目陽子／ピースボ
ード災害支援センター 辛嶋友香里

第16回WEBセミナー「災害支援×歯科医療」にて、 新潟大学・新潟県歯科医師会・新潟県歯科衛生士会・ 新潟県歯科技工士会がコラボしました



【場 所】
新潟医療育成センター4Fホール
(Zoomビデオウェビナーを使っ
たライブ配信)
【開催日時】
2021年3月21日(日)
【講 師】
瀬尾憲司／金丸博子／佐藤圭一／
大内章嗣／船岡陽子／飛田 滋

大好評第3弾！「災害時の食と栄養課題」



【場 所】
Zoomビデオウェビナー
【開催日時】
2021年9月18日(土)
【講 師】
下浦佳之／明城徹也／上島安裕／
齋藤由里子／高橋 昌

令和3年度新潟県災害医療研修会



【場 所】
Zoomビデオウェビナーを用いた
オンラインセミナー
【開催日時】
2021年10月23日(土)
【講 師】
日本赤十字北海道看護大学 根本
昌宏／新潟県／和泉邦彦

新潟県防災局防災企画課「新型コロナウイルス感染症を 踏まえた避難所運営業務研修」に協力しました

【場 所】新潟県庁2階 201会議室
【開催日時】2021年5月28日(金)
【講 師】和泉邦彦

にいがた防災リーダー・キャリアアップ講座に 協力しました

【場 所】「朱鷺メッセ」4階国際会議室、及びZoomを用いたオンライン配信
【開催日時】2021年10月23日(土)
【講 師】新潟大学災害・復興科学研究所 卜部厚志／長岡技術科学大学大学院 上村靖司 他

活動報告 ≫ 心のケア

第4回 PFA（WHO 版）研修会



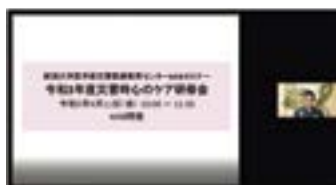
【場 所】
新潟医療人育成センター（新潟大学旭町キャンパス内）
【開催日時】
2019年8月25日（日）

災害時心のケア研修会



【場 所】
Zoomビデオウェビナーを用いたオンラインセミナー
【開催日時】
2020年10月17日（土）
【講 師】
平安病院 滝友秀

災害時心のケア研修会



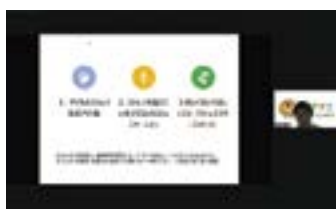
【場 所】
Zoomビデオウェビナー
【開催日時】
2021年9月11日（土）
【講 師】
琉球大学 伊藤義徳

第5回新潟「子どものための心理的応急処置（PFA for Children）」研修会



【場 所】
新潟医療人育成センター（新潟大学旭町キャンパス内）
【開催日時】
2019年9月29日（日）

子どものための心理的応急処置紹介研修会ー感染症状況下でのこころのサポートー



【場 所】
Zoomビデオウェビナーを用いたオンラインセミナー
【開催日時】
2020年10月17日（土）
【講 師】
半蔵門のびすこどもクリニック 河島譲／セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 赤坂美幸

グループワークで学ぶ 子どものための心理的応急処置（紹介版）



【場 所】
Zoomミーティング
【開催日時】
2021年9月25日（土）
【講 師】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 赤坂美幸／さくら心理相談室 久保千晶

「第4回子どもにやさしい空間（CFS）」&「遊びを通した子どもの心のケア」研修会



【場 所】
新潟医療人育成センター（新潟大学旭町キャンパス内）
【開催日時】
2019年9月29日（日）

令和2年度新潟県災害医療研修会



【場 所】
Zoomビデオウェビナーを用いたオンラインセミナー
【開催日時】
2020年11月14日（土）
【講 師】
新潟県／新潟県立新発田病院 長谷川聡／さくら心理相談室 久保千晶

子どもにやさしい空間（CFS）～実践事例と運営のヒント～紹介研修



【場 所】
Zoomビデオウェビナー
【開催日時】
2021年8月28日（土）
【講 師】
小野 道子／山形 文／高橋 布美子／山田 心健

DMORT 養成研修会 IN 新潟



【場 所】
新潟医療人育成センター（新潟大学旭町キャンパス内）
【開催日時】
2018年12月2日（日）

第2回 DMORT 養成研修会 IN 新潟



【場 所】
新潟医療人育成センター（新潟大学旭町キャンパス内）
【開催日時】
2019年5月19日（日）

オンライン版 DMORT 紹介セミナー、全国初開催



【場 所】
Zoomビデオウェビナーを使用したオンラインセミナー
【開催日時】
2020年12月5日（土）
【講 師】
一般社団法人日本DMORT 理事長 吉永和正／副理事長 村上典子／理事 河野智子

活動報告 ≫ 災害薬事

災害薬学研究会 2018



【場 所】
新潟日報メディアシップ6階「メディアキャンパス」
【開催日時】
2018年11月30日(金) 13:00～17:30

日本災害医療薬剤師学会第9回学術大会の合同セッションとして、『災害薬学研究会 2021』及び『災害医療×感染症～中越・中越沖地震に答はある』を開催しました



【場 所】
オンライン開催(ホスト会場:新潟薬科大学新津駅東キャンパス)
【開催日時】
2021年7月3日(土)～2021年7月4日(日)
【講 師】
杉原多公通/小林靖奈/尾関佳代子/畔原篤/井口清太郎/井上誠/堀井淳一/山岸美恵子/船岡陽子 他

平成 30 年度新潟県災害薬事研修会



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2018年12月16日(日)

令和元年度新潟県災害薬事研修会(新潟県薬剤師会主催、新潟県病院薬剤師会共催、新潟大学医学部災害医療教育センター共催及び協力)を開催しました



【場 所】
新潟医療人育成センター
【開催日時】
2020年1月26日(日)～
【講 師】
山崎 雅幸/和泉邦彦/金井秀樹/山岸美恵子

「令和 2 年度新潟県災害薬事研修会」に 194 名のご参加を頂きました



【場 所】
新潟医療人育成センター
【開催日時】
2021年1月17日(日)
【講 師】
新潟県医務薬事課 山崎雅幸/新潟大学 和泉邦彦

新潟薬科大学 高度薬剤師教育研究センター 2020 年度グループ研修にて、『輸液の基本と応用』『災害薬学 実践編』を担当しました



【場 所】
新潟薬科大学 新潟駅前キャンパス
【開催日時】
2020年9月7日(月)
【講 師】
和泉邦彦

令和元年度愛知県薬剤師会本部設置訓練に講師として参加しました

【場 所】愛知県薬剤師会館
【開催日時】2020年2月9日(日)～
【講 師】和泉邦彦

愛知県薬剤師会 防災研修会 災害派遣薬剤師研修に講師として協力しました

【場 所】愛知県薬剤師会館2Fあいやくホールから、Zoomを用いたオンライン研修
【開催日時】2021年10月10日(日)
【講 師】名古屋掖済会病院 北川喜己/当センター和泉邦彦

第5回新潟 PhDLS インストラクターコース / プロバイダーコース



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2018年9月29日(土)～2018年9月30日(日)

第6回新潟 PhDLS インストラクターコース / プロバイダーコース



【場 所】
長岡赤十字看護専門学校(新潟県長岡市千秋)
【開催日時】
2019年2月23日(土)～2019年2月24日(日)

第7回新潟 PhDLS



【場 所】
新潟大学医学部災害医療教育センター
【開催日時】
2019年9月21日(土)～2019年9月22日(日)
【講 師】
日本赤十字社医療センター 林宗博 他

第8回新潟 PhDLS インストラクターコース、プロバイダーコース



【場 所】
糸魚川総合病院
【開催日時】
2020年2月15日(土)～2020年2月16日(日)

「薬局での臨床推論～災害時も普段も使える臨床推論と一般用医薬品 4」AC・CC・ロジ専門家コース 合同 WEB セミナー



【場 所】
Zoomを用いたオンラインセミナー
【開催日時】
2021年8月31日(火)
【講 師】
畔原篤(ウエルシア薬局株式会社 在宅推進部)

令和元年度愛知県災害薬事研修会に講師として参加しました



【場 所】
愛知県自治研修所
【開催日時】
2020年1月22日(水)～
【講 師】
和泉邦彦

【災害医療×感染症 薬局での臨床推論～災害時も普段も使える臨床推論と一般用医薬品】AC・CC・ロジ専門家コース 合同 WEB セミナー

【場 所】 Zoomミーティングによるオンラインセミナー 【開催日時】 第1回2020年10月12日(月)～ 第2回2020年12月15日(火)～ 第3回2021年3月23日(火)～ 第4回2021年8月31日(火) 第5回2021年9月29日(水) 第6回2021年10月21日(木)
【講 師】 畔原篤(ウエルシア薬局株式会社 在宅推進部) ほか

活動報告 ≫ 看護・保健

第1回新潟 BHELP インストラクターコース



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年7月27日(土)

第4回新潟 BHELP 標準コース



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年7月26日(金)

平成30年度災害時保健活動研修会(基礎編)



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2018年11月7日(水)

第4回災害時の保健医療研修会～避難所の情報管理とアセスメント～



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年7月19日(金)

令和元年度災害時保健活動研修会(応用編)



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年11月14日(木)

令和元年度魚沼地域災害時保健医療研修会



【場 所】
魚沼市小出ボランティアセンター(新潟県魚沼市)
【開催日時】
2019年12月17日(火)

「避難所アセスメント研修」AC・CC・ロジ専門家コース合同 WEB セミナー

【場 所】 Zoomミーティングによるオンラインセミナー
【開催日時】 2021年8月26日(木)
【講 師】 梶山和美(北里大学病院 災害医療対策室看護師長 災害看護専門看護師)

【履修生対象】2020年6月緊急事態宣言解除後臨時 WEB セミナー

第1回 2020年6月16日(火) 第2回 2020年6月23日(火) 第3回 2020年6月29日(月)

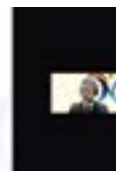
【場 所】 Zoomミーティングによるオンラインセミナー
【講 師】 新潟大学医学部災害医療教育センター 和泉邦彦

令和2年度災害時保健活動研修会・基礎編（新潟県福祉保健部 医師・看護職員確保対策課）



【場 所】
Zoomミーティングを用いて実施
（各地域振興局健康福祉（環境）部にて端末を用いて受講）
【開催日時】
2020年9月17日（木）
【講 師】
齋藤玲子／茂呂寛／当センター和泉 他

令和2年度南魚沼地域災害時保健医療研修会



【場 所】
Zoomミーティングによるオンラインセミナー
【開催日時】
2020年10月1日（木）
【講 師】
高橋昌／佐藤栄一／和泉邦彦／中込悠

新潟市災害保健医療活動研修会



【場 所】
新潟市総合保健医療センター
2階講堂
【開催日時】
2020年8月7日（金）
【講 師】
高橋昌／佐藤栄一／和泉邦彦／中込悠

令和3年度南魚沼地域災害時保健医療研修会



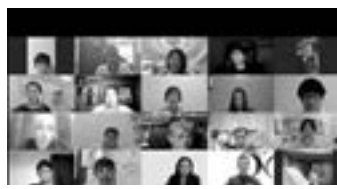
【場 所】
南魚沼保健所からZoomを用いたオンライン研修
【開催日時】
2021年10月9日（土）
【講 師】
高橋昌／和泉邦彦

【災害医療×感染症】WEB 講演会「避難生活での健康を守るために」（公募）



【場 所】
Zoomビデオウェビナーによるオンラインセミナー
【開催日時】
2020年7月5日（日）
【講 師】
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 高岡誠子
座長：新潟大学 高橋昌
司会：同 佐藤栄一

【災害医療×感染症×多職種連携～職種の視点を活かした地域診断～】WEB 研修会 AC・CC・ロジ専門家コース合同 web 研修



【場 所】
Zoomミーティングを用いたWebセミナー
【開催日時】
2020年7月31日（金）～2020年8月5日（水）
【講 師】
北里大学病院 災害医療対策室看護部長 災害看護専門看護師 梶山和美

【災害医療×感染症】WEB 講演会「避難生活での健康を守るために 第2部」AC・CC・ロジ専門家コース合同 web 研修

【場 所】Zoomミーティング 【開催日時】2020年7月5日（日）
【講 師】阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 高岡誠子
オーガナイズ：新潟大学 和泉邦彦

【災害医療×感染症×多職種連携～他職種で保管しながら支援する～】WEB セミナー AC・CC・ロジ専門家コース合同 web 研修

【場 所】Zoomミーティングを用いたWEBセミナー
【開催日時】2020年11月26日（木）～2020年12月2日（水）
【講 師】北里大学病院 災害医療対策室 梶山和美

活動報告 ≫ 災害医療ロジスティクス

平成 30 年度広域災害救急医療情報システム (EMIS) 研修会



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年3月9日(土)

災害医療における情報管理技術研修会



【場 所】
華鳳(新潟県新発田市)
【開催日時】
2019年11月3日(日)

新潟 JMAT 研修 試行コース (マネジメント編)



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2018年11月25日(日)

新潟 JMAT 研修 試行コース (スキル編)



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年1月20日(日)

令和元年度新潟 JMAT 研修



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2020年2月23日(日)

平成 30 年度上越地域災害医療研修会



【場 所】
上越保健所(新潟県上越市)
【開催日時】
2018年10月26日(金)

佐渡地域災害医療コーディネートチーム研修会

【場 所】 佐渡総合病院(新潟県佐渡市)
【開催日時】 2019年3月14日(木)

令和 2 年度上越地域災害医療研修会

【場 所】 Zoomミーティングを用いたオンラインセミナー
【開催日時】 2020年10月15日(木)～
【講 師】 高橋昌／佐藤栄一／和泉邦彦／中込悠

平成 30 年度柏崎刈羽地域災害医療コーディネーター チーム災害対応研修会



【場 所】
柏崎地域振興局(新潟県柏崎市)
【開催日時】
2018年12月10日(月)

平成 30 年度長岡地域災害医療コーディネーターチ ーム研修会



【場 所】
燕三条地場産業振興センター(新
潟県三条市)
【開催日時】
2018年11月22日(木)

令和元年度上越地域災害医療研修会 ～大規模災害における保健医療活動と避難所アセス メント～



【場 所】
上越地域振興局(新潟県上越市)
【開催日時】
2019年9月17日(火)

令和元年度魚沼地域災害時医療コーディネーターチ ーム本部訓練



【場 所】
小出病院(新潟県魚沼市)
【開催日時】
2019年10月9日(水)

令和元年度柏崎刈羽地域災害医療コーディネーター チーム災害対応研修会



【場 所】
柏崎地域振興局(新潟県柏崎市)
【開催日時】
2019年12月5日(木)

令和 2 年度長岡地域災害医療コーディネーターチ ーム活動情報交換会



【場 所】
長岡市消防本部
【開催日時】
2020年11月18日(水)
【講 師】
高橋昌／佐藤栄一／和泉邦彦／中
込悠

第 18 回新潟 MCLS 標準コース

【場 所】新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】2019年7月28日(日)

第 5 回新潟 MCLS-CBRNE 標準コース

【場 所】新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】2020年1月19日(日)

活動報告 >> 災害医療ロジスティクス

第6回新潟「人道と緊急支援の国際基準トレーニング【基礎編】」



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2018年10月20日(土)～2018年10月21日(日)

第1回新潟「人道行動における子どもの保護の最低基準(CPMS)」研修会



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年9月28日(土)

第1回新潟 Q&A トレーナー養成研修(日本語版)



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年2月7日(木)～2019年2月10日(日)

オンライン版スフィアハンドブック研修



【場 所】
Zoomオンラインセミナー(ミーティング)
【開催日時】
2021年11月6日(土)～2021年11月13日(土)
【講 師】
CWS Japan 五十嵐豪/日本ファーストエイドソサエティ 岡野谷 純

平成30年度新潟県災害医療研修会(下越地区)



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2018年11月20日(火)

令和元年度新潟 DMAT ブラッシュアップ研修



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2020年2月1日(土)

令和2年度新潟 DMAT ブラッシュアップ研修

【場 所】 Zoomビデオウェビナー/ホスト会場:新潟医療人育成センター
【開催日時】 2021年3月13日(土)
【講 師】 新潟県警察本部交通部企画課/新発田病院 関口博史/当センター 和泉邦彦

今後に向けた新型コロナウイルス感染症への対応に関する研修会

【場 所】 新潟県庁 行政庁舎 2階西回廊 講堂 (Zoom による開催)
【開催日時】 2020年8月27日(木)
【講 師】 信楽園病院 感染制御部部長・呼吸器内科部長 川崎聡/新潟市民病院 感染制御室 大崎角米 他

平成 30 年度新潟 DMAT 隊員養成研修



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2018年11月1日(木)～2018年11月3日(土)

2019 年度（令和元年度）新潟 DMAT 隊員養成研修



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2019年6月21日(金)～2019年6月23日(日)

新潟 DMAT 活動報告会



【場 所】
新潟医療人育成センター(新潟大学旭町キャンパス内)
【開催日時】
2018年11月3日(土)

令和元年台風 15 号災害に際し、DMAT ロジチーム第 3 次隊として派遣されました



【開催日時】
2019年9月12日(木)～2019年9月16日(月)

令和元年台風 19 号災害に伴い、DMAT ロジチームとして活動しました



【場 所】
長野県保健医療調整本部、長野医療圏DMAT活動拠点本部、他
【開催日時】
2019年10月14日(月)～2019年10月17日(木)

第 25 回日本災害医学会総会・学術集会 緊急企画「緊急特別講演『新型コロナウイルス感染症 日本でいま起きていること』」



【場 所】
神戸国際会議場(兵庫県神戸市)
【開催日時】
2020年2月22日(土)



日本災害医療薬剤師学会

第9回学術大会

The 9th Annual Meeting of Japan Pharmacist Society of Disaster Relief

新潟/新型災害薬学 ～コロナ・シフト500日の総括～



会 期 2021年7月3日(土), 4日(日)

会 場 Zoomを用いたオンライン開催

ホスト会場：新潟薬科大学 新津駅東キャンパス

大会長 和泉邦彦 (新潟大学医学部災害医療教育センター)

<https://www.med.niigata-u.ac.jp/disaster/pharm/>



《合同企画》

新潟薬科大学・新潟大学
災害薬学研究会2021



要 旨 集

【 抜 粹 】

JS1 【新潟薬科大学・新潟大学合同セッション】災害薬学研究会 2021

オンラインで近づく現場と大学 ～災害医療における在野研究・リカレント教育～

JS1-1 「災害」と「薬学」：今後の方向性

新潟薬科大学 薬学部

杉原 多公通

日本は災害大国である。地震、噴火、豪雨、豪雪等のニュースを聞かない年はなく、災害にまでに達することも少なくない。これらの自然災害は、マスコミがその被災状況を取り上げ可視化することから、人々の記憶に残る。それ故、自然災害とその対応に関する内容を後進に伝達し、これらを教材に『災害と薬学』について学習することは比較的容易である。発災時における DMAT 等の災害医療チームの活躍が、被災者の心身の健康を支えており、その行動には敬意を表する。しかし、発災時に医療を必要とする人々の数よりも復旧・復興期に医療を必要とする人々、あるいは、医療が必要であるのにもかかわらず必要ないと考えている人々の数が圧倒的に多く、この対応が災害医療において残された問題の一つである。同時に、可視化され難い復旧・復興期の対応は、現場経験の少ない後進にとっては実感が湧かず、伝達するには難しい教育内容となっている。

一方、MNBC (Material/Nuclear/Chemical/Biological hazard) による人為災害は、被災状況や災害への対応状況が可視化され難い。それ故、人為災害とその対応に関する内容を後進に伝達し、これらを教材に『災害と薬学』について学習することは、実感が湧かないが故に難しい教育内容となっている。

このコロナ禍において生活インフラが大きく変化した。授業・講演会や会議、さらには診療までオンライン化が進み、時間的な制約だけを越えることができれば、個人間で容易につながることができる。このオンラインの活用によって医療が大きく変化すると考えられ、可視化され難い災害への対応がより容易になるばかりか、臨場感に溢れた教育が可能となるであろう。大学という立場から『災害と薬学』教育に関して幾つかの提案を示す。

略歴

1986 年 東北大学薬学部 卒業
1991 年 東北大学大学院薬学研究科博士後期課程 修了 (薬学博士)
1992 年 米国 Purdue 大学化学科 博士研究員
1994 年 東北大学薬学部 助手
1998 年 徳島文理大学薬学部 助教授
2002 年 京都大学化学研究所 客員准教授
2004 年 新潟薬科大学薬学部 教授
2012 年 新潟薬科大学薬学部長・大学院薬学研究科長
2015 年 東京理科大学 客員教授
2018 年 新潟薬科大学 副学長

2019 年も押し迫った 12 月、世界で初めて原因不明の重症肺炎が報告された。その後、瞬く間に全世界に広がった。過去には様々な病原体による感染症が世界中で猛威を振るったことは知られているが、科学技術が高度に発展し、人々の生活水準も上がっている中でさえ「パンデミック」を全世界が目当たりになることになった。私たちは今、自然災害の真っ只中にいる。

「災害は忘れた頃にやってくる」……。そんな言葉があったことを忘れてしまうほど、近年は自然災害が多発している。一度災害が発生すると、それを克服するためには長い時間と多くの努力が必要になる。発災時、多くの場合「着の身着のまま」となる。これは全ての人に起こりうる。災害は人や場所、時間を選ばない。

2015 年から薬学教育に取り入れられた改訂薬学教育モデルコアカリキュラムの学修到達目標（SBOs）には、「B 薬学と社会（4）地域における薬局と薬剤師 5 災害時の薬局の役割について説明できる」、『F 薬学臨床（5）④災害時医療と薬剤師 1.前）災害時医療について概説できる。2.災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。3.災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する（態度）』のみである。特に実務実習前にやるべき SBOs にはあまり具体性がない。

そこで今回、演者が新潟薬科大学在職中に経験させて頂いた薬学生に対する災害医療教育について、災害薬事研修コース（PhDLS）に参加した学生のレポートをテキストマイニングし、災害医療に対する学生ニーズを解析した結果を紹介したい。なお、末筆ながら本研究会で紹介する全ての内容は、演者が新潟薬科大学在職中に教員・事務職員の多大なる協力を得て行ったものであり、その結果として進めることができたことを申し添えるとともに、新潟薬科大学関係各位に心より感謝致します。

略歴

1990 年 3 月昭和薬科大学卒業。薬剤師。1995 年 3 月同大大学院薬学研究科博士後期課程修了。博士（薬学）。1995 年 4 月昭和大学薬学部臨床薬学教室助手（員外）、1996 年米国 Arizona 大学薬学部 Pharm/Tox (Dr. James R. Halpert)、1998 年杏林大学医学部薬理学教室研究生、国立岡崎共同研究機構基礎生物学研究所研修生、2003 年 1 月昭和大学薬学部臨床薬学教室講師、2003 年 4 月助教授、2007 年 4 月准教授、2016 年 4 月昭和大学薬学部臨床薬学講座薬物治療学部門准教授、2017 年 1 月新潟薬科大学薬学部薬効安全性学研究室教授、2018 年 4 月新潟薬科大学高度薬剤師教育研究センター長、2020 年 11 月昭和大学薬学部薬学教育学講座教育企画・評価学部門教授、薬学教育推進室長。

JS1-3 防災対策における薬局の状況に関する調査

愛知学院大学 薬学部 実践薬学講座

浜松医科大学 健康社会医学講座

尾関 佳代子

災害時に切れ目を作らずに薬を必要な人の手に届くようにすることは大変重要であり被災者への薬の供給において薬局の担う役割は大きい。また医薬品のみならず、薬局は被災時において医療関連用品などの備蓄・供給拠点としての利用も期待される。

私は 2016 年より中部電力との産学連携研究の中で、災害時における薬局の役割の研究を一貫して行ってきた。本年度も継続中である。これまで行ってきた研究の中で、大規模災害が想定されている地域においても、多くの薬局で什器が固定されていない、備蓄水が無い等の状況が確認され、防災対策の強化が必要であることが明らかになった。また解析結果から、災害時の薬局の備えは、防災意識の高低に関連し、平時から災害に対する意識を持つことの重要性が示唆された。しかしながら、薬局を規模別で層化してみると、防災意識と備えの関連は一樣とはならないことも明らかとなった。これは大規模薬局では薬局経営者と薬局管理者が一致していないことも一因と考えられ、薬局店長及び管理者の防災意識だけでなくチェーン店等を統括する本部が防災意識を高く持ち、適宜店舗に指示を与えることの重要性が示唆された。この結果は論文として発表*をしている。（*Ozeki & Ojima.Disaster medicine and public health preparedness.2019）

2019 年末に新型コロナウイルスの第 1 号患者が発見されてから、薬局も変化を余儀なくされた。多くの薬局が「0410 通知」に基づいた処方箋の受付を行い、今後、災害時にも平時にも必ず活用されるであろうオンライン服薬指導に関しても目の前に迫ってきた事実として受け止めた薬剤師も多いのではないと思う。今後、災害時の薬局対応として、地震や洪水といった自然災害だけでなく、未知の感染症の流行も視野に入れる必要がある。いかなる時も被災者、近隣住民に寄り添う薬局の災害時の役割をさらに検討していきたい。

略歴

1984 年 名古屋市立大学 薬学部薬学科卒業
1984 年 名古屋第二赤十字病院 薬剤部
1999 年 杏林堂薬局
2016 年 浜松医科大学医学系研究科博士課程修了（医学博士）
2016 年 浜松医科大学健康社会医学講座 特任研究員（兼任）
2021 年 愛知学院大学 薬学部 実践薬学講座 准教授

JS1-4 災害医療研修における薬剤師の臨床推論

ウエルシア薬局株式会社 在宅推進部

畔原 篤

私はウエルシア薬局株式会社での社費留学制度を利用し、2016年から筑波大学大学院に所属し、総合診療医のもと臨床推論を学び、薬剤師向けの臨床推論研修コンテンツを作成してきた。2018年からは社内だけでなくイオンハピコム総合研修機構を通じて、全国で薬剤師向けに臨床推論の講義を行ってきた。2020年10月から新潟大学災害医療教育センターにおいて災害医療で活用できる臨床推論の研修を行ってきた。参加者は医師、看護師、薬剤師、理学療法士、救急救命士など多くの職種に参加して頂いた。研修内容は、避難所等での症状の訴えとその対応方法だけでなく、避難所に集められる一般用医薬品を有効活用するために一般用医薬品の選択も内容に盛り込んだ。今回は研修の成果について、アンケート結果と共に振り返り、オンラインならではの研修実施時の工夫点、今後の展望をお伝えする。

※臨床推論とは、主訴から疾患を想起して、最終判断を決定する一連の思考プロセスことを指す。

略歴

2005年 新潟薬科大学卒業
2009年 ウエルシア薬局株式会社 入社
2016年 筑波大学大学院 公衆衛生学修士課程 入学
2018年 筑波大学大学院 公衆衛生学修士課程 修了
2018年4月から現職

JS2 【新潟大学医学部災害医療教育センターセッション 災害医療×感染症】

中越・中越沖地震に答はある～コロナ対応につながる教訓

JS2-1 中越沖地震における災害医療コーディネーター活動

新潟県 福祉保健部

堀井 淳一

平成 19 年 7 月 16 日午前 10 時 13 分、新潟県では柏崎市・刈羽村を中心に震度 6 強の中越沖地震が発生し、死者 15 人、重軽傷者 2,316 人、全壊 1,320 世帯、半壊 5,710 世帯と大きな被害を受けた。県内では平成 16 年 10 月 23 日にも中越地震に見舞われており、3 年足らずの間に 2 回も大きな地震を経験することとなった。

県では、中越地震の後、平成 18 年度に県災害時医療救護活動マニュアルの改訂が行われ、被災地を所管する保健所長が災害医療コーディネーターとして医療班・資材の調整にあたることとなっており、医師会、歯科医師会などの医療関係団体、災害拠点病院、市町村、保健所及び県医薬国保課等と連携をとり活動することとされていた。

中越沖地震では 16 都道府県から DMA T 42 チームが参集し、救護活動を行っている。災害拠点病院である刈羽郡総合病院での超急性期の活動が比較的早期に終了したため、DMA T は地元医師会と相談し、柏崎市の保健センター「元気館」に現地災害医療本部を立ち上げ、本来業務ではないが、各避難所の巡回診療や本部の運営、巡回のコーディネートにあたってくれた。保健所で指揮を執っていた保健所長は、夜になり県庁から医療本部が立ち上がった旨連絡を受け、元気館に赴いて医師会長と話し合い、翌朝のミーティングから参加することとなった。DMA T とともに本部の運営にあたり、地震発生後 48 時間の 7 月 18 日朝からコーディネート役を交代し、その後、約 1 か月コーディネーターとして活動した。主

たる役割は避難所を巡回する医療チームの調整等であり、結果的には中越地震とは違い、避難所における医療チームの混乱はほとんど見られなかった。

JS2-2 ロジスティクスで守るいのち

新潟大学大学院医歯学総合研究科 新潟地域医療学講座 災害医学・医療人育成部門

新潟大学医学部災害医療教育センター

高橋 昌

中越地震の経験を契機として必要性が認識された災害医療コーディネーター制度をいち早く導入し、全国へその必要性を発信してきた新潟県を再び襲った中越沖地震。奇しくもこの新潟県の地震災害が、自らが発信した災害医療コーディネーターを活用した全国初の災害となった。

「災害医療」という言葉が「有事の急性期外傷対応」「瓦礫の下の医療」といった現場に一番近い部分だけが切り取られたイメージで一人歩きする中、新潟県で立て続けに発災した二つの災害が、「災害医療」の本質が、医療需要と供給のアンバランスの中で行われる医療であり、需給関係のバランスを是正するロジスティクスこそが「災害医療」の重要課題であると気づくきっかけとなった。その重要課題の認識は、その後のDMATをはじめとする災害医療教育が、現場医療からロジスティクスへ舵をきるターニングポイントともなり、日本災害医学会も災害医療ロジスティクス専門家の養成に乗り出した。

新潟大学医学部災害医療教育センターでも従来の災害医療教育プログラムに加えて、「実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成」として人材育成を開始した。

そして現在、我々は世界史を書き換える大事件となっている新型コロナウイルス感染症に直面している。感染者が急増する中、逼迫する医療資源、医療崩壊というアンバランスが命を脅かす事態に世界中が震撼する様は、正に災害医療そのものである。

新潟県においても当初より災害医療として対応を開始し、現場の感染症専門家による必死の治療と並行して、アンバランスを是正するためのロジスティクスの強化として新潟県庁の医療調整本部に災害医療の専門家であるDMATのメンバーが40人規模で参画し、医療と保健と行政が一体となって災害医療対応で新型コロナ感染症の対応にあたっている。

新潟市という政令指定都市を含み首都東京と二路線の新幹線で直結し、感染拡大地域となっている関西圏や北海道、沖縄とも直行便で結ばれている新潟県であるが、人口あたりの累計感染者数、累計死亡者数、死亡率ともに47都道府県の中で全国トップ10以内を維持し続け、一定の成果を収めている。

医療現場をロジスティクスで支えることの重要性を示した中越沖地震、そしてそのノウハウを活かして直面する感染症災害に立ち向かっている新潟県の現状について「ロジスティクスで守るいのち」として今回のシンポジウムで概説する。

略歴

昭和 63 年 新潟大学医学部医学科卒業 医師免許取得
平成 6 年 新潟大学大学院医科学研究科博士課程修了 医学博士
平成 26 年 4 月 新潟大学大学院医歯学総合研究科 特任教授（地域医療推進・教育学講座 担当）
新潟医療人育成センター長（兼任・現職）
平成 26 年 11 月 新潟大学医学部災害医療教育センター 副センター長（兼任・現職）

(略歴続き)

平成 28 年 4 月 新潟大学大学院医歯学総合研究科 特任教授 (現職)
(新潟地域医療学講座 災害医学・医療人育成部門 担当)
平成 30 年 4 月 新潟薬科大学 客員教授 (現職)

所属学会・認定医専門医

日本外科学会	日本外科学会認定医 外科専門医
日本胸部外科学会	日本胸部外科学会認定医 正会員
社会医学系専門医協会	社会医学系専門医・指導医
日本心臓血管外科学会	
日本小児外科学会	
日本循環器学会	
日本小児循環器学会	(評議員 蘇生科学教育委員会副委員長)
日本小児救急医学会	
日本災害医学会	(理事・評議員 広報委員会委員長 利益相反委員会委員長 総務委員会委員 倫理委員会委員 社会医学系専門医検討委員会委員)
日本医学教育学会	
日本シミュレーション医療学会	

災害・救急医療関連資格

厚生労働省 DMAT 資格取得・登録
厚生労働省 統括 DMAT 資格取得・登録
日本 DMAT インストラクター
JPTEC (外傷病院前救護訓練コース) インストラクター 世話人
MCLS (多数傷病者救護訓練コース) インストラクター 世話人
MCLS-CBRNE インストラクター
ITLS pediatric (国際外傷救命教育訓練小児コース) インストラクター
ETS (エマルゴトレーションシステム) シニアインストラクター
PUSH 認定インストラクター/ディレクター (新潟 PUSH 代表)
BHELP(地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース)
インストラクター 世話人
UDME (大学病院災害管理技能者) 登録者/講師
CPMS (人道行動における子どもの権利保護の最低基準) トレーナー
PFA for Children (子供のための心理的応急処置) トレーナー

JS2-3 災害の変遷と薬剤師の行動変容 ～中越・中越沖地震から今を考える～

一般社団法人 新潟メディカルプラン

山岸 美恵子

2004 年 10 月 23 日 17 時 56 分 M6.8、震度 7.0、中越地震が発生した。新潟県薬剤師会の指揮の基、全国から 1017 名の薬剤師が駆けつけ、薬剤師会として始めて組織的な支援活動に取り組んだ。1017 名もの薬剤師が中越に集結し、27 日間、組織的に活動した。この活動は、東日本大震災まで災害時の支援活動の教訓として日薬マニュアルに掲載されていた。

2007 年 7 月 13 日 10 時 13 分、M6.8、震度 6 強、中越沖地震の発生。中越沖地震は、DMA Tを始め医療コーディネーターが機能し、新潟県の薬剤師はこの一員として活動した。

2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分、東日本大震災発生、誰もが経験したことのない大惨事が起こった。日薬のスキームに則り、全国から薬剤師の支援を募り活動を展開した。

DMA T、JMA T、PMA T等々が動き出し、OTCのみの携帯が、医療用医薬品にも関わり、医師と共に避難所を回る。画期的な行動が起きた。まさに、薬剤師の評価が変わった！！物から人へと、その後の薬剤師の活動の変化をもたらすものであった。

そしてそれは熊本地震でしっかりと定着した。災害は、豪雨、洪水と毎年人々の生活を脅かす。

そしてコロナ禍、薬剤師はコロナワクチンの集団接種の要員として、活動をしている。

略歴

一般社団法人 新潟メディカルプラン 監事

公益社団法人 新潟県薬剤師会 元会長

一般社団法人 新潟県歯科衛生士会 柏崎ブロック長
船岡 陽子

2007 年 7 月 16 日、新潟県中越沖地震（震度 6 強、M6.8）発生。あれから 14 年の月日が流れ、地域では復興が進み、穏やかな生活が戻ってきました。時間の経過とともに地震の記憶も薄れがちですが、「災害は忘れたころにやってくる。」ことを肝に銘じて活動してきました。

当時は、地震直後から避難所（福祉避難所を含む）への災害支援活動に参加し、その後、中長期的支援事業（サポート事業）により、行政職員とともに在宅や仮設住宅を訪問して、被災者のいろいろな相談に応じながら、口腔領域の課題を抽出し、歯科医師と連携して活動してきました。今、振り返ると、この活動が現在の私の活動の原点になっており、地震災害支援の経験をもとに、「地域活動歯科衛生士」として柏崎地域において乳幼児健診や学校健康教育、事業所歯科健診、高齢者の介護予防事業や口腔ケアなどに関わり、いろいろなライフステージで幅広く活動しています。

災害後は、避難所生活の長期化に伴い、口腔衛生状態の不良による誤嚥性肺炎や様々な感染症の予防が重要となります。また、栄養摂取の観点からも、水分不足や食事内容・食事形態が制限される中で、低栄養や生活不活発発病の発症が懸念されます。それらの予防や、早期発見・早期治療に繋げるために、避難所の要援護者（現在は要配慮者という。）に対して巡回口腔ケア・口腔衛生指導を実施してきました。現在のコロナ禍の環境においても、口腔ケア・口腔衛生指導の継続はとても重要であると考えています。

近年は、柏崎地域もコロナ感染予防の観点から、訪問診療や口腔衛生管理を一時的に中断している施設も多くあり、かなりの活動制限を余儀なくされています。しかし、定期的に入居者の口腔ケアを継続している口腔衛生管理加算算定施設では、栄養状態の安定や誤嚥性肺炎予防に繋げて、効果を上げています。それらの現場での活動も一部ご紹介したいと思います。

略歴

-
- ・氏名 船岡陽子（フナオカヨウコ）
 - ・所属 新潟県歯科衛生士会 柏崎ブロック長
 - ・歯科衛生士としての普段の活動
昭和 62 年 歯友会歯科技術専門学校卒業（現在の明倫短期大学）
一般開業歯科医院に勤務後
現在 柏崎市歯科医師会在宅歯科医療連携室 登録歯科衛生士
柏崎地域において「地域活動歯科衛生士」として活動中
乳幼児健診や学校健康教育、事業所歯科健診、高齢者の介護予防事業および口腔ケアへの関わりなど、いろいろなライフステージで幅広く活動している
 - 資格 認定歯科衛生士「在宅療養指導・口腔機能管理」「摂食嚥下リハビリテーション」
 - ・災害支援に関する今までの活動、経緯など
2007 年 7 月 16 日新潟県中越沖地震

(略歴続き)

歯科救護所・避難所、福祉避難所巡回口腔ケアを実施関わる

その後の健康サポート事業から居宅療養管理指導へ移行して活動した

2009年9月 日本歯科衛生学会 第4回学術大会 口演発表

「新潟県中越沖地震直後の福祉避難所における要援護者に対する巡回口腔ケア」

2011年5月 砂書房 「歯科における災害対策 防災と支援」掲載

「災害時の口腔ケアマニュアル 口腔ケア体制の実際」

2011年9月 日本歯科衛生学会 第6回学術大会 特別企画パネルディスカッション

「大規模災害、今、歯科衛生士にできること」

報告3「新潟県中越沖地震における歯科衛生士の活動から得たこと」

2018年2月 平成29年度 新潟大学歯学部同窓会学術セミナーⅢ 発表

2018年2月 医歯薬出版(株) 災害歯科医学

「災害時歯科衛生士の役割～新潟県中越地震・新潟県中越沖地震の事例～」掲載

2019年9月 新潟県歯科医師会研修会

「新潟県中越沖地震における歯科衛生士の取り組み」発表

2021年3月21日 新潟大学医学部災害医療教育センター第16回WEBセミナー

「災害支援×歯科医療」

「災害時における歯科衛生士の活動の実際～新潟県中越沖地震を経験して～」発表

アンケート結果による 大会総括

【抜粋】

「災害薬学研究会 2021」（杉原先生、小林先生、尾関先生、畔原先生）

学生教育/オンライン

- 薬学教育モデルコアカリにおける「災害教育」について改めて多くのことを考えた。
／実務実習でも事前訪問もなく、事前協議会もオンラインで全体的な講演のみ。実習生は直接患者への指導は禁止で、実習は見学と模擬ばかり。実践的に自ら考え学んでもらうことが難しい。／災害医療は実践での教育が最も効果的な分野、困難さを極める。／学生への伝え方や内容で、今後の大学での過ごし方にも影響をうける。
- オンラインやサテライト方式など、実体験に近い、多様で有効な手法があり得る。
／今回はオンライン開催でとても良かった。／コロナ禍でオンラインの有用性に改めて気付いた。／オンラインの活用により、医療が大きく変化すると、可視化されにくい災害への対応がより容易になり、臨場感に溢れた教育が可能。

経験と教育

- 実務実習の学生さんに、災害時の医療や生活支援の話をするとうれしくしてくれた。
／現地入りした薬剤師が対応するのと、教科書的な教育とのギャップは常に感じる。
／中越震災の際は在宅医療と薬情を元にした相談業務。3.11 の際は災害処方箋対応で後発品薬品名対応、病院内薬剤師よりも面対応の薬局薬剤師が幅広く医療巡回チームをサポート、専門医以外に対し糖尿病薬や外用薬などを提案。

これからの課題

- 尾関先生の調査を自地域でも行なってみたい。／畔原先生の講義受けたい。
- 臨床推論は、我々病院薬剤師は、病棟、外来でも行っていかなければならない分野。
／災害薬学にはさまざまなアプローチがある。／勤務の傍らに研究、論文発表されている話を伺い、自分が日々の業務に追われて「しない」ことを「出来ない」と決めつけていたと反省させられた。
- 一番の課題は興味がない医療従事者に最低限の知識をつけさせること。
- 一つの災害が復旧、復興する中で、次の災害が発生している昨今、映像が溢れ、若年層の災害医療への躊躇は想像に難くない。彼らが能動的に取り組めるような教育内容の設定は難しく、真摯に取り組む教育者がいて下さることが、臨床（薬局実務）の希望。
- 災害医療において薬剤師ができることの認識差がある。何から学ばばよいかについてのヒントをいただきたい。

《コメント》

私にとって新潟での薬学の仕事の恩人である杉原先生は2016年2月の、そして今大会の実行委員長をお引き受け頂いた小林先生は2018年11月の、本研究会のオーガナイザーを務められました。また過去2回は、西川徹矢先生（新潟薬科大学特別招聘教授・弁護士 元内閣官房副長官補）にご指導を頂きました。今回は寺田先生のご逝去とコロナ禍のため大きく方針を変更しましたが、引き続きご指導頂きたいと思っています。

今後は、これまでのようなシンポジウム形式だけではなく、今回のような発表会形式のセミナーを継続的に実施したいと考えており、本合同セッションはその発足会の位置づけと考えています。今大会用のHPを「災害薬学研究会」用のHPとして再利用し（経費削減のため。新潟薬科大学学長の下條先生にもご相談済みです）、研究会の開催に関する募集・成果共有

などに用いられればと思います。具体的な中身については、これから参加者の皆様と作り上げていきたいと思っています。何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

「災害医療×感染症」（堀井先生、高橋先生、山岸先生、船岡先生）
+ SS2（井口先生、井上先生 座長：外山先生）

新潟県における災害医療の発展とロジスティクス/コーディネーション

- 本学会の発展とご活躍されている先生方のご経験やご苦労を感じた。／新潟県は平成 16 年の 7.13 水害に始まり、大震災、沖地震、豪雪、東日本大震災の受け入れ等全国にない複数の災害を経験、これまでの活動を検証し次の災害に備えていくことが重要。／中越震災、中越沖震災があり、新潟の先生方の努力と奮闘により様々な新潟発、全国初、があり今があると感じた。／中越・中越沖地震の経験から様々なことが発展、災害医療に関わる中で課題を乗り越えていくことが大切。
- 需要と供給のアンバランス＝災害医療。アンバランスの解消に集中。
- いろいろな職種の医療チームが災害場所には集まる。災害コーディネーターが入ることにより、無駄なく混乱無く調整。／中越地震と中越沖地震との違いは災害コーディネーターの有無、中越の際は医療関係団体が連携する事なく、各団体が自身の職種で活動していたので全体としては被災者に有効な支援を行えなかった。それに比べ中越沖の際は全体を取り仕切る災害コーディネーターが配置されていたことにより、各団体が連携。死者数の減少が表している。シミュレーションを含む実地研修の必要性を感じる。／中越震災の際に東京 DMAT が来て、初めてのことで何をしてもらったらいいかわからない、連携できないという話はとてもインパクトがあった。／中越震災で DMAT に対応できなかったとおっしゃった先生が今では新潟県の DMAT 育成で活躍していること、新潟県が全国でも災害医療を牽引していることなど、新潟県の災害医療の流れを改めて勉強できた。
- 中越震災に答はあったのか？ 中越震災・3・11 の両方の経験値から、あると言える。
- 新潟の取り組みとしての患者受入調整センター。新潟が covid-19 についての対策の実践に優れていること、災害医療について積み重ねてきたことが伝わってきた。

歯科領域と薬学・他職種とのコラボレーション

- 歯科医の講演は欠かせない。／歯科医師及び歯科衛生士との連携も重要性を感じた。／歯科医師の先生の話、摂食・嚥下を取り入れて下さりとても有り難かった。／井上先生の話は普段聞くことがない領域で興味深い。
- 口を通してのなるほど！に共感。／歯科領域は被災後の長期的な健康維持には重要。
- 数年前の大規模災害訓練の際、医師の口頭での処方指示を処方箋におこすところを歯科医が替わってくださった。お互いの職能を理解することが大事。／外部からのサポートを上手く活用できるようにすることが大切。

口腔ケアは平時から

- 口腔ケアの大切さを知った。／口腔ケアの大切さを改めて感じた。／摂食・嚥下障害患者に関しては平時と有事の境目はあまりない。内服薬の入り口も口腔、もっと興味を持っていかねば。／口腔保湿ジェルの充実を知り、高齢者の口腔内衛生のア

ブローチが増えた。／平時から補助用品に使い慣れてもらい、健康維持につながるよう提案。／災害時の口腔ケアのデータが興味深い。

- 高齢者に対する口腔衛生状態、摂食嚥下状態から食の QOL 維持。井上先生へ質問し大変参考になった。要配慮者以外の方向けに備える歯科関係の物品についても知りたい。／義歯調整を含む口内環境の維持改善により誤嚥性肺炎の発症を抑制でき、それによって特に高齢者の災害関連死者数の減少に貢献できる。／災害時の活動の中で口腔衛生に関しても目を向けていきたい。

ウイルス/嚥下と噛む力の関連/おせんべい

- 口腔ケアがウイルス感染に関わるとは驚き。／口腔ケアとウイルス感染の関連、噛む力と飲み込む力はパラレルではない、平時から災害時まで口腔ケアがいかに重要か／口腔内細菌はウイルス感染に関係、歯科の診療室にてクラスターが起らず、むしろ歯科を受診し口腔ケアをした方が新型コロナに感染しにくい、とても有り難いお話。
- フレイル予防も含め、口腔歯科衛生は重要。特に咀嚼することは認知機能予防にも。／災害弱者は食べる力にも問題があることを再認識。
- ヒノキチオールという成分が肺炎予防に良いことは初めて聞いた。調べていきたい。
- おせんべいは 1 回につきどのくらいの量・大きさがよいのか、どんな方に適しているのか。／水分補給や口腔ケアはおそろそかになりがち。おかゆは食べられないが、せんべいは食べられることは驚き。水分が多いものは嚥下に注意。／嚥下と咀嚼の機能の評価をみて（お煎餅とお粥の症例より）口腔環境によって口腔内崩壊錠でも誰にでも使えるものではないことを再認識。／摂食嚥下リハビリのおせんべいは醤油味？ 非常食用に缶詰で味噌味ならミネラル摂取も？

本学会発足につながる活動

- 中越地震の際の薬剤師の先生方のご活躍を初めて知った。／大規模災害時における薬剤師の先生方の役割や有り難さを実感。／地元で関わられた先生方の御苦労と今日に至るまでの様々な経緯も理解。山岸先生の当学会設立の主旨も伺えた。／日常からの取り組みにも薬剤師ができることがあると再認識。／慢性疾患は後回しになりがちだがそれも重要。／避難生活が長引くとまた別の疾患の発症に注意が必要、など、地域の薬剤師への大切なメッセージ。
- 私が初めて災害医療に出会ったのは 2004 年の新潟県中越地震で小千谷市の総合体育館や小規模避難所での OTC 薬の配布活動だった。当時は試行錯誤の連続で多職種連携の言葉すら存在しない状況。その翌年日本薬剤師会第 38 回学術大会広島県大会で初めて分科会のシンポジウムで災害医療が取り上げられ、私が座長兼コーディネーターを引き受け、それを機会に本学会の設立を構想し、同志の賛同を得て

2006 年 4 月に設立、その後多くの地震や洪水等の自然災害が発生したため関心を寄せる薬剤師が増えて今日に至るが、そのきっかけとなった新潟県で学術大会が開催されたのは感慨深い。

OTC

- OTC には疎いので、災害時対応できるよう学びたい。／OTC の取扱は殆ど経験がなく、現場にある OTC の中から最適と思われるものを自分で選んで渡すという行為は正直不安だった。この経験によりセルフメディケーションに対する姿勢が変化した。／薬剤師が OTC 薬の取り扱いを命じられその場で色々考え一つずつ工夫して取り組まれたお話などとても勉強になった。

コロナ禍においても

- コロナ対応も災害時の対応も、薬剤師として何ができるか、求められていることは何か、考え行動したい。／今回のコロナワクチンの件も、行政との連携は大事。

たのしい薬剤師

- 医療支援か生活支援かという問いが印象的。心理士においても、東日本大震災の際は、災害医療としても関わりながら、多くは生活支援として活動した。広域災害において医療と生活の境は揺れ動くもの。医療的な支援が必要な被災者すべてを医療の枠組みで完全にカバーするとなると医療がパンクする。一方どこかで線引きして応急的な医療支援をしないと困る被災者が出て、のちに悪化し本格的な医療ニーズにつながるかもしれない。医療支援と並行し、生活支援として医療的なサポートがあることが、医療支援や後の健康（早期回復）を支える。生活の中で医療チームが入りながら、セルフメディケーションや地域の健康づくりを支援することが求められる。薬剤師が果たす役割は大きい。学会に参加し、薬剤師の活躍の幅を感じ、頼もしいと思った。
- 災害医療に精通した医療従事者、事務の方が現場にいることは励み。

《コメント》

今回、史上初の災害医療コーディネーター堀井先生と、現場で共に対応に当たられた井口先生、高橋先生にご登壇頂きました。中越沖地震以前は「災害医療コーディネーション/ロジスティクス」に関する実践は日本では極めて限定的でした。堀井先生から講演後に頂いたコメントとして、今回の講演でひとつ特徴的なことは、災害医療コーディネーターが県庁レベルではなく、保健所レベルで保健所長が務めるということ。法律上の命令権者である（すなわち人権に対して一義的な義務を負う）保健所長がコーディネーターであることは（それをどう呼ぶかは議論の余地があるとして）極めて自然であり、行政の本来業務である調整

(コーディネーション)を、「チームで支える」という点が新潟版災害医療コーディネーター制度の最大の鍵です。問題は、誰がコーディネーターか、ではなく、「どういうチームでコーディネーションするか」の方であり、この点については、災害薬事コーディネーターという言葉を使用する際も、その本来あるべき意味を考える礎として頂ければと思います。

山岸先生は、述べるまでもなく本学会の発起人のおひとりであり、中越地震で現場の薬剤師を統括されていました。今回示して頂いたのは、OTCによる支援は「医療支援ではなく」生活支援であったということ。新潟大学医学部災害医療教育センターでは、軽症者に対する薬局カウンタートリージは、緊急性の高い市民を確実に医療に繋ぐとともに、病院の負荷を軽減する鍵になると意義づけし、プライマリケアにおける臨床推論研修を行っています

(講師は畔原先生です)。それが「医療支援ではない」となると…ここに OTC の扱いが災害救助法上宙に浮いてしまう理由がありそうです。処方箋医薬品の個人備蓄(医療保険制度上にはない)の問題と合わせ、法、制度、規則等の改正・修正を待つわけにいかない課題として、現場レベルでの対応の工夫・知恵について、引き続き検討したいと思います。

井上先生は、中学時代は堀井先生と、大学時代は井口先生と同級生であられたとのこと。図らずも旧友を深めて頂く機会に(?)。歯科領域の中でも、井上先生のご専門は口腔衛生・摂食嚥下(栄養)といった疾病予防に直結する点で、薬剤師の業務と極めて近いところにあります。スリリングなデータの読み解きやウイルス学と分子生物学の接点、常識を疑い覆す貴重な映像、多岐にわたる話題は薬剤師が好むものばかりであり、このインパクトをそのまま平時業務の質向上につなげると共に、災害時の視点にプラスしていかなければと思います。また船岡先生には、2021年3月に新潟大学で実施した「災害支援×歯科診療」に続いてご登壇頂きました。この分野を得意と自負する薬剤師(や看護師)にとっても、目からうろこの知見と経験に溢れる講演だったのではないのでしょうか。

全体を通してのご意見(アンケートより)

歴史、コーディネーション、連携

- この学会の意義、新潟から始まったこと、初めて知った。／災害医療とはアンバランスな需要と供給の状態であり、そこをどうバックアップするかを考えて動くこと、調整すること。／新潟での開催で、中越、中越沖地震を振り返りながら、コロナ対応について考える機会。／災害時では、どの職種にも当てはまらない業務もあり、そのグレー部分に重要なスイッチがある。／医療・保健・福祉に関わる多くの専門職能が大切。／日頃から多職種でお互いの力を合わせられるよう行動できるきっかけづくりになった。

研鑽

- 災害時は、自分自身も平静を装えなくなる、色々な方の体験や提案を聞くことや実践として研修を積むことで、災害の時に貢献することが出来るのでは。／薬品の仕分けや搬入が主と考えていたが、環境衛生に関する協力活動が大変多かったことに驚き。／災害対応は多岐に渡ることをあらためて認識、薬剤師の普段の業務の更な

る充実と災害時の対応について、多職種間でも認識の共有が必要。／薬剤師とは東日本大震災の際、避難所の救護所で活動をご一緒させていただき、テキパキとにこやかに対応される姿に感銘を受けた。このような土台あつての活動なのだと当時を振り返り、今を学ばせて頂いた。／病院薬剤師〇年目です。災害の分野に携わりたいと考え、現在の職場に勤めています。まずは日常業務をしっかり勤めることを実践していきたいと思います。

オンライン Good or NG ?

- オンラインの形だったため参加しやすかった。／WEB でも支障なくできたのでよかった。／オンラインでの開催が参加を後押しした。／オンライン開催で参加が可能となり非常にありがたかった。／今回の学会は、延期や WEB の選択となり、本当に皆様は大変だったと思う。素晴らしい学会。／このような状況下で、オンラインの学会開催に感謝。／WEB で開催いただき、関係各位には感謝しかありません。／オンライン参加ではあったが、多くの先生方から素晴らしい発表を拝聴することができ、自分のすべきことを考えさせられました。／社会全体、また個人的にも遠方での学会参加に制限があるため、オンラインでの開催は非常にありがたい。
- オンライン開催ですが、楽しむことができた。時期柄内容に偏りがあるのは仕方ないが、病院や薬局レベルでの具体的な災害対策などがきけると良かった。／皆さんと会えず、直接話せなかったのは残念、体力的には楽だった。／現地に行って聞くとオンラインで聞くのでは、やはり現地の方が数倍良い。／Web 開催もいいがやはり、リアルタイムの対面式の方が質疑もしやすい。とはいえ、このような状況で開催してくださったスタッフの皆様に感謝します。／交通費がかからない分、参加しやすいが、P Cの前にずっといるのが若干苦痛。
- 仕事が休めなかったのがオンラインで参加できて助かった。欲を言えば、オンデマンドでも配信いただけたら嬉しかった。／会員参加者向けなどに録画の公表など。／オンデマンドでの視聴が出来るとありがたい。／オンデマンドで再視聴したい。※オンデマンド配信については、セッションの多くがスポンサードセミナーないし合同セッションのため、手続きが困難と考えられます。ご期待に沿えず申し訳ございません。

寄せられた声/次回への期待（あくまで一部。多くのメッセージを有難うございます。）

- コロナのせいでなかなか災害研修ができない中貴重な勉強の機会をありがとうございました。／日常業務、日常生活が大変なこの時期に、このような素晴らしい大会を開催していただき心より感謝申し上げます。／素晴らしい学術大会に参加できて、良かったです！／とても様々なトピックスが組み込まれており、有意義な時間でした。／スタッフの皆様、お疲れさまでございました。／大会長はじめ、大会運営の

皆さん、お疲れ様でした！／コロナ禍での開催で大変だったかと思いますが、ありがとうございます。／大会長のご尽力に、心より感謝を申し上げます。／大会を開催して下さった皆様、本当にありがとうございました。／大変興味深いお話を聞くことができてよかった。／本当にお疲れ様でした！ 改めて皆様にお会いしたいと心から思いました。ご尽力くださいました皆様に敬意を表します。／今回は様々な分野から登壇者がそれぞれの立場で話されたので、充実しておりました。／コロナ禍の大変な状況下、準備に始まり今日まで、本当にお疲れ様でした。／貴重な時間をいただきありがとうございました。／有意義な時間をありがとうございました。／大変素晴らしい勉強をさせていただいたと思います。／このような状況の中の開催ありがとうございました。／今回職種の違いを超え、学会へ参加できたことに感謝致します。／全体の構成など素晴らしかったと感じました。大会長はじめ運営の皆様方に感謝。

- 次回学術大会、研修を楽しみにしています。／次回の学会も是非参加したいと考えています。／次年度はオンサイトで参加できるようにコロナ禍が収束していること、皆様のご健康とご活躍を祈念したしております。／薬剤師の職能が周知されず、他の業務の話が出ている中、粛々と真摯に業務を遂行してきた医療者の頑張りが、今回の開催、未来に繋がると感謝しています。／次回の開催まで改めて行動変容できるよう発信していきます。／またこのような機会に参加させて頂きたいと思いました。／大学教育からの災害薬学や災害医療の学びが在野の薬剤師に浸透し世の中が書き換えられ、多くの医療人が災害医療を当たり前に学べる未来がくると良いなと思いました。／次の世代にどのように繋ぐことができるのか、この活動を多くの薬剤師に受け止めてもらい、聞いてもらいたいと思いました。／今後、私が所属する団体にも学会発表などを通じて、貴学会を見習い機会の必要性を投げかけていきたいと思います。／発表された演者の先生、色々な質問をした聴講者の方など災害に対するモチベーションが上がった。また今後も災害に前向きに向き合いたい。
- 「SL ばんえつ物語」の出発風景も良かった。／黙々と煙を吐きながら力強くホームを出発した SL の姿に心が和んだ。／SL 発車シーンなど委員のおもてなしが最高。

要望、疑問

- 大規模災害発生時における災害薬事コーディネーターの必要性和役割、それを担う薬剤師の養成と行政との連携等について。
- 大会中に災害対応の演習が1コマでも行えると良い。
- 停電すればもろもろ手作業になるし、医薬品の供給はどうなるのか。避難所以外での活動の事例や、メーカー、卸の対策も聞いてみたい。
- 新型コロナワクチンに関する薬剤師の参加について無償での協力は大変疑問。ボランティア精神は大切だが美談として語られてはいけない。

5. 大会長総括

大変多くの生の声を寄せて頂き、誠に有難うございました。これほど熱いアンケート結果がこれほどの回収率で集まる学会・研修会は、他に例がないのではないのでしょうか。大変感動しています。一応の務めとして、以下にアンケート結果に基づいた総括を試みております。すでに語りつくされていますので、一言総括としました。

1. 大会長講演：「あみだくじ」。寄り道の効用。
2. 特別講演：「恐怖心・パニックは情報遮断/無知から」
自ら Safety を実践しながら、医療者・患者・市民全ての不安を受け止める。
3. ミニシンポジウム：行政目線・薬剤師目線の「換気」「トイレ」
4. 災害薬学研究会 2021：「実務経験と教育・調査研究の協働」
大学の基盤と個性的な経験を若い世代に。学生教育の場での発信が課題。
5. SS1：「地域連携＝災害医療」
栄養、疼痛、睡眠、排泄、認知。薬剤師の職能でできることは多彩。
6. 災害医療×感染症+SS2：「コーディネーション×ロジスティクス」＋
「嚥下とおせんべい×ウイルス疾患と口腔衛生」＋「生活支援×医療支援」

加えて、本企画全体を通して足りなかったもの。私自身は二十数年にわたり病院薬剤師をしてきて、その中で災害対策委員会の一員として、訓練の立案・統括、マニュアル・BCP 作成、安否確認システム導入、等々を行ってきましたが、本学会での BCP 関連の演題は、尾関先生の調査研究のみと限定的でした。また、医歯薬連携の裏で、看護職の参加が限定的となりました。本責任は全て大会長にあります。本大会は看護職にも魅力的な内容であったと確信しますので、是非、皆様から広めて頂くことを期待しております。現在も、ワクチン大規模接種会場で看護職と協働する中で、(10 年間、朝から晩まで病棟で一緒に仕事をしていたのに…)お互いの「知らない一面」に、驚愕の連続です。

謝辞

コロナ禍にも関わらず特例的に会場使用をご許可頂きました、新潟薬科大学学長 下條文武先生、学事課長 茂木弘邦様、準備から当日まで、当方のわがままなお願いにも快く応じて頂きました新津駅東キャンパス事務室長 石川善樹様、増井崇様はじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

また、このたびの大会では、応援をしたいとの意思をお伝え頂いていた多くの組織委員、実行委員の皆様、準備に携わって頂くこと、現地に足を運んで頂くことが叶わず、大変申し訳ありませんでした。ご支援は大変励みになりました。県内実行委員の皆様には、いつも相談に応じて頂き、心より感謝申し上げます。

最後に、学術大会放映にあたって下さった「高橋昌映像プロダクション(?)」の皆様、本当にありがとうございました。



日本災害医療学会第4回学術大会
新潟県立大学・新潟大学共同開催（2023年10月27-28日）

薬学生の災害時医療に対する 学習ニーズ ～テキストマイニング解析から見たもの～

昭和大学薬学部薬学教育推進室
薬学教育学講座教育企画・評価学部門
小林 謙彦



防災対策における薬局 の状況に関する調査

愛知学院大学 薬学部 実践薬学講座
浜松医科大学 健康社会医学講座
尾関 雄代子








プロデューサー：高橋昌

映像ディレクター：中込悠

衛生管理：横尾悠里佳

カメラ：松山景子

アナウンサー：内山かつら

レポーター：渡辺和子

他：山岸美恵子、関川敬、比護恵

(敬称略)





新潟大学医学部 災害医療教育センター
Center for Disaster Medicine and Education
Niigata University Faculty of Medicine

〒951-8510 新潟県新潟市中央区旭町通1番町757
(新潟医療人育成センター内)

TEL 025-227-0827 FAX 025-227-2036

Mail disaster@med.niigata-u.ac.jp

HP <http://www.med.niigata-u.ac.jp/disaster/index.html>



災害医療教育

検索